
第2次匝瑳市総合計画策定のための 職員意識調査

結果報告書

平成30年12月

匝瑳市

<目次>

第1章	調査の目的と実施概要	1
1	調査の目的	3
2	調査の概要	3
3	報告書のみかた	3
第2章	調査結果	5
問1	性別はどれですか	7
問2	年齢はどれですか	7
問3	所属は次のどれですか	7
問4	匠瑛市について他の市町村の人に自慢したいことはありますか	8
問4-1	それはどのようなことですか	9
問5	匠瑛市をイメージすることばとしてどれがふさわしいと思いますか	10
問6	匠瑛市らしいまちづくりを進める上で、活用すべき地域資源は何だと思いますか	11
問7	匠瑛市の今後のまちづくりで、特に力を入れるべき項目は何だと思いますか	12
問8	市の高齢者や障がいのある方に対する施策として、何が重要と考えますか	14
問9	市の子育て支援への取組で、何が重要と考えますか	16
問10	地域の医療環境への取組で、何が重要と考えますか	18
問11	市の農林水産業振興への取組で、何が重要と考えますか	20
問12	市の商工業振興への取組で、何が重要と考えますか	22
問13	市の観光振興への取組で、何が重要と考えますか	24
問14	市の安全なまちづくりへの取組で、何が重要と考えますか	26
問15	市の自然環境保全への取組で、何が重要と考えますか	28
問16	小・中学校運営において、何が重要な取組と考えますか	30
問17	市の生涯学習・スポーツ、文化活動への取組で、何が重要と考えますか	32
問18	市の人権問題への取組で、何が重要と考えますか	34
問19	市の行財政改革の取組で、何が重要と考えますか	36
問20	協働によるまちづくりが推進されていると思いますか	38
問21	お住まいの市や町で市民（町民）として地域活動に参加していますか	39
問21-1	どのような活動内容ですか	40
問22	市役所は、市民に対する情報の提供や公開が十分であると思いますか	41
問23	市役所は、市民から信頼されていると思いますか	42
第3章	その他・自由意見	43
第4章	意識調査票	67

第1章 調査の目的と実施概要

第1章 調査の目的と実施概要

1 調査の目的

「匠瑤市総合計画」が平成31年度(2019年度)で最終年度を迎えることから、2020年度から2031年度を計画年度とする「第2次匠瑤市総合計画」の策定に当たり、市職員の意見を計画策定の参考とすることを目的として実施しました。

2 調査の概要

調査対象	全職員（臨時・嘱託・派遣・英語指導助手を除く。）
調査期間	平成30年7月12日～平成30年7月31日
調査方法	直接配付・直接回収
回収状況	配付数：453票　回収数：453票　回収率：100.0%

3 報告書のみかた

この調査の分析結果を読む際の留意点は以下のとおりです。

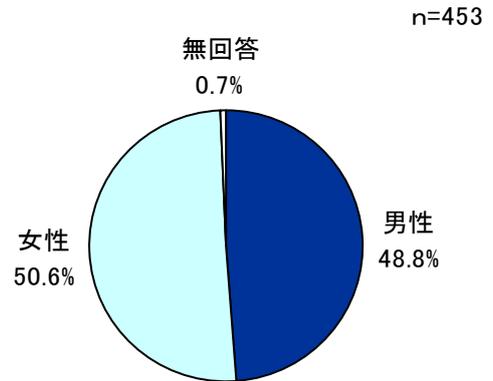
- 「調査結果」の図表は、原則として回答者の構成比（百分率）で表現しています。
- 「n」は、「Number of case」の略で、構成比算出の母数を示しています。
- 百分率による集計では、回答者数（該当質問においては該当者数）を100%として算出し、本文及び図表の数字に関しては、すべて小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表記します。また、複数回答の設問では、すべての比率の合計が100%を超えることがあります。
- 設問の中には、前問に答えた人のみが答える「限定設問」があり、表中の「回答者数」が全体より少なくなる場合があります。
- 図表中の「0.0」は四捨五入の結果または回答者が皆無であることをあらわします。
- 母数が100未満の場合の百分率は、統計的誤差が大きい可能性が高いので数値の取扱いには特に注意が必要となります。
- 選択肢の語句が長い場合、本文中及び図表中では省略した表現を用いる場合があります。
- 傾向において、差があるという場合は、主に全体に対し5ポイント以上の差がある場合を意味します。
- 前回調査との比較については、職員意識調査では平成18年（2006年）に実施した「匠瑤市総合計画策定にかかるアンケート調査（市民・職員）」を対象に行っています。凡例等に「前回調査」とあるものはこの調査を示します。

第 2 章 調査結果

第3章 調査結果

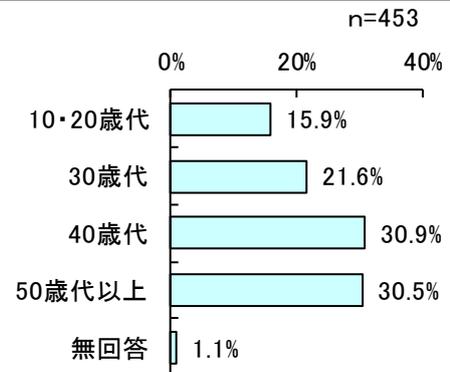
問1 あなたの性別はどれですか。(1つに○)

性別は、「男性」が48.8%、「女性」が50.6%となっています。

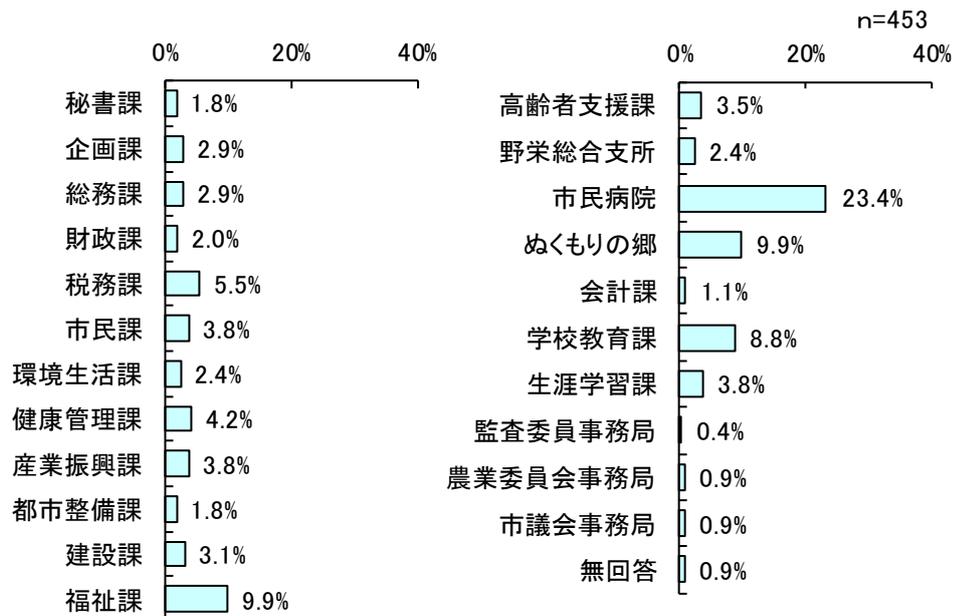


問2 あなたの年齢はどれですか。(1つに○)

年齢は、「40歳代」が30.9%で最も高く、次いで「50歳代以上」が30.5%、「30歳代」が21.6%などとなっています。

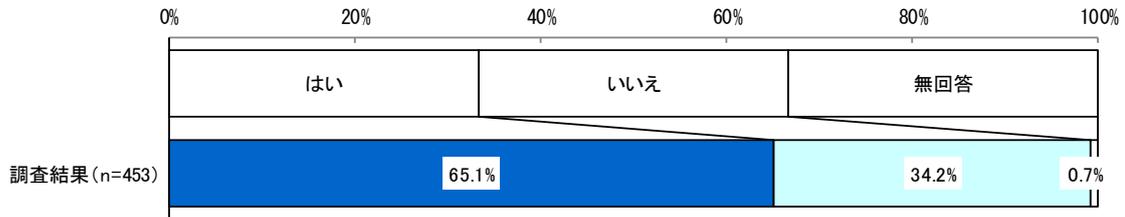


問3 あなたの所属は次のどれですか。(1つに○)



所属は「市民病院」が23.4%、「福祉課」と「ぬくもりの郷」がそれぞれ9.9%などとなっています。

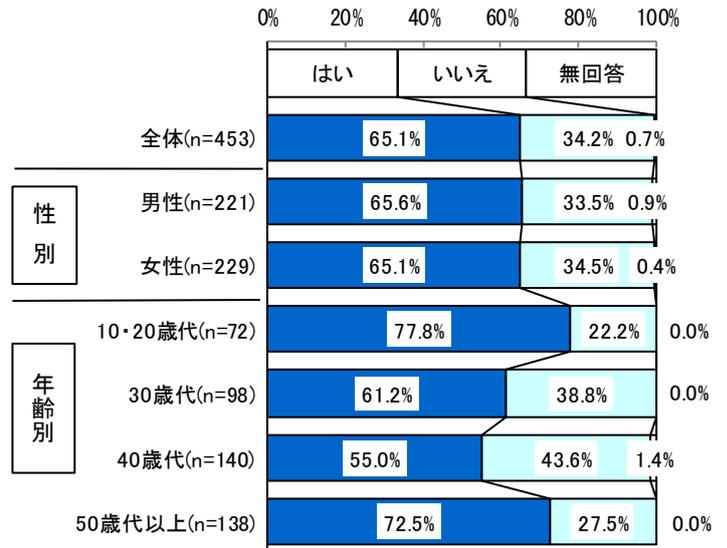
問4 あなたは、匠瑛市について他の市町村の人に自慢したいことはありますか。
(1つに〇)



市で自慢したいことがあるかについては、「はい」と回答した人は 65.1%となっています。

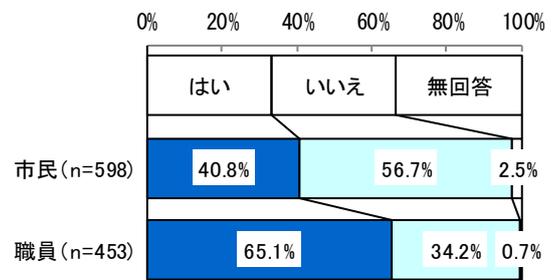
◇ 性別・年齢別に見た傾向

年齢別では、10・20歳代で「はい」と回答した人が 77.8%と各世代で最も高く、次いで、50歳代以上が 72.5%と7割を超えて高くなっています。



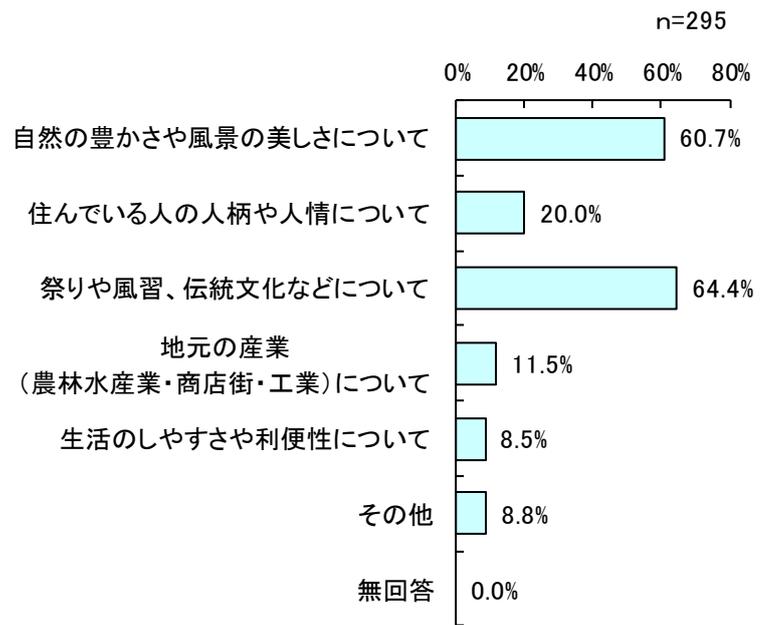
◆ 市民意識調査と職員意識調査の比較

市民意識調査と比較すると、「はい」と回答した人が 24.3 ポイント高くなっています。



問4-1 それはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

市で自慢したいことがあるかについて「はい」と回答した人の、自慢したい内容については、「祭りや風習、伝統文化などについて」が64.4%で最も高く、次いで「自然の豊かさや風景の美しさについて」が60.7%、「住んでいる人の人柄や人情について」が20.0%などとなっています。



◇ 性別・年齢別に見た傾向

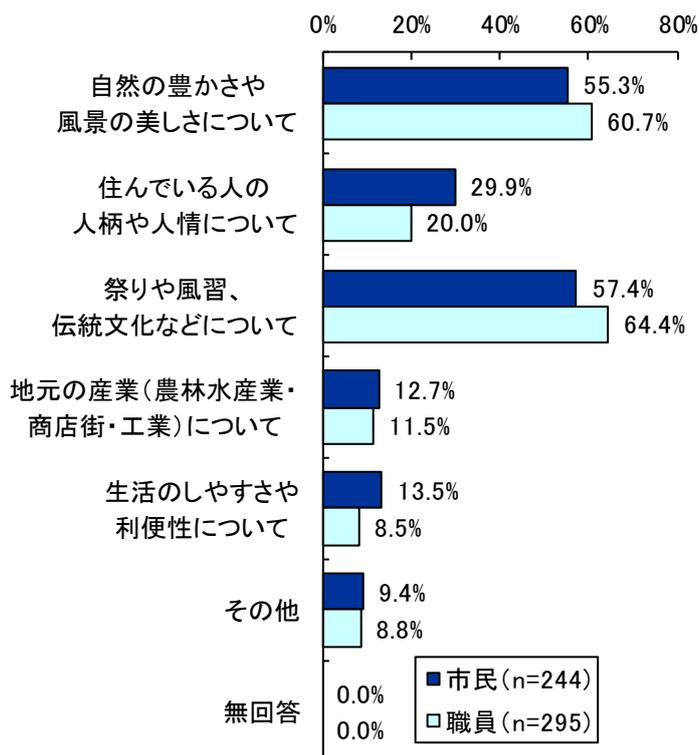
		回答者数 (n)	自然の豊かさや風景の美しさについて	住んでいる人の人柄や人情について	祭りや風習、伝統文化などについて	地元の産業 (農林水産業・商店街・工業)について	生活のしやすさや利便性について	その他	無回答
全体		295	60.7	20.0	64.4	11.5	8.5	8.8	0.0
性別	男性	145	58.6	18.6	64.1	17.9	9.0	10.3	0.0
	女性	149	62.4	21.5	64.4	5.4	8.1	7.4	0.0
年齢	10・20歳代	56	57.1	12.5	51.8	16.1	7.1	7.1	0.0
	30歳代	60	53.3	13.3	70.0	13.3	8.3	11.7	0.0
	40歳代	77	64.9	20.8	63.6	6.5	5.2	6.5	0.0
	50歳代以上	100	64.0	28.0	69.0	12.0	12.0	9.0	0.0

男性では、「地元の産業（農林水産業・商店街・工業）について」が全体よりも高くなっています。

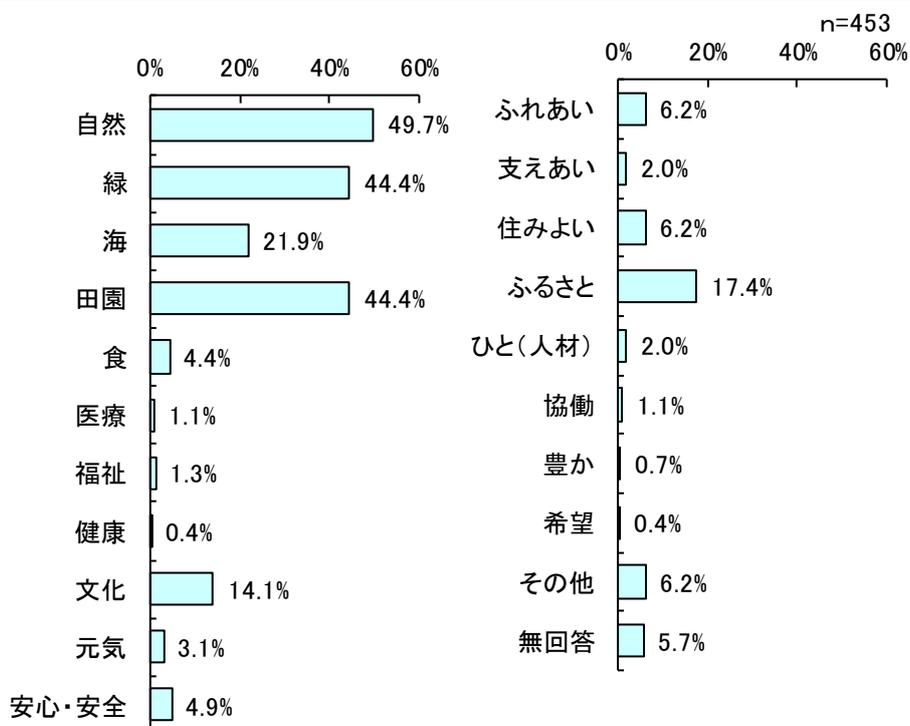
30歳代の7割が、「祭りや風習、伝統文化などについて」を自慢したいと回答し、全体より高くなっています。50歳代以上では、「住んでいる人の人柄や人情について」が全体より高くなっています。

◆ 市民意識調査と職員意識調査の比較

市民意識調査と職員意識調査ともに「祭りや風習、伝統文化などについて」が最も高く、次いで「自然の豊かさや風景の美しさについて」、「住んでいる人の人柄や人情について」の順となっています。



問5 匝瑳市をイメージすることば(キーワード)としてどれがふさわしいと思いますか。(3つまで○)



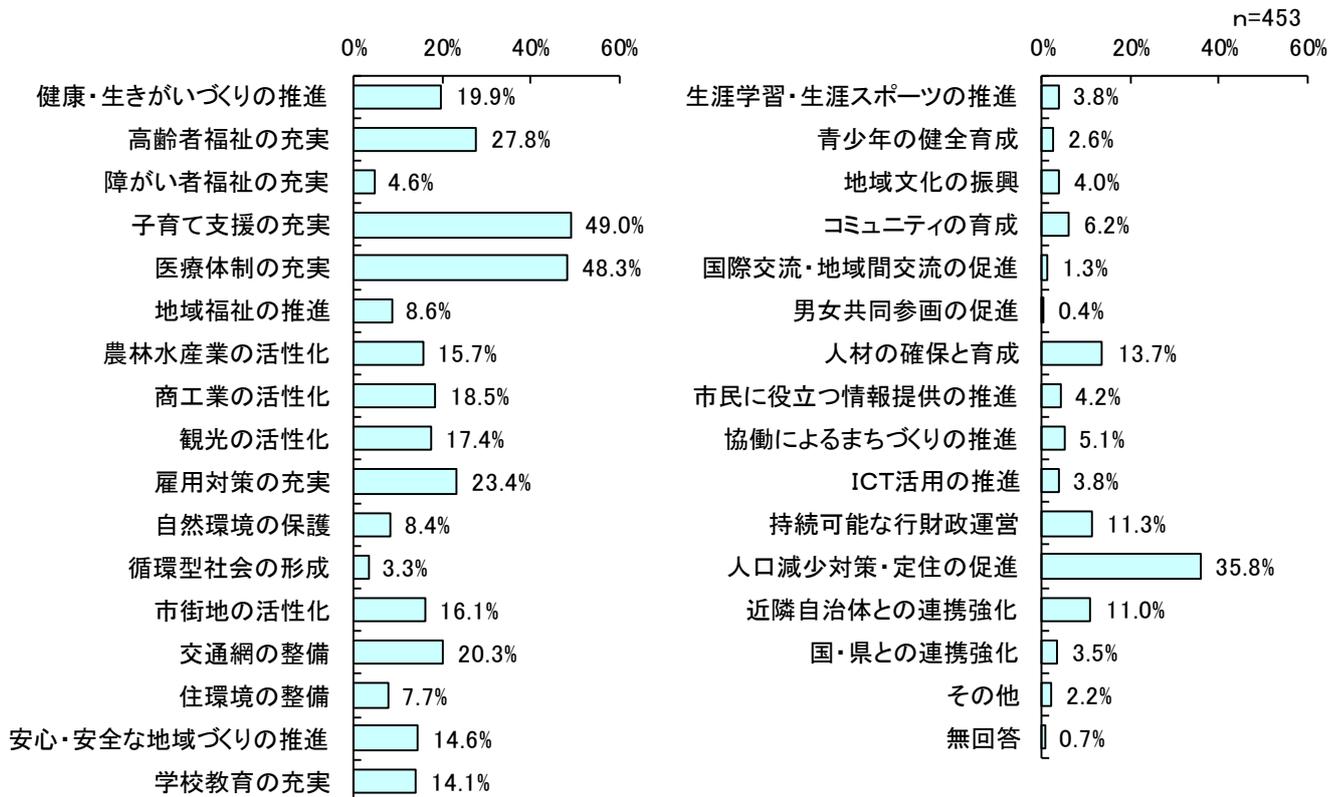
匝瑳市をイメージすることばをたずねたところ、「自然」が49.7%で最も高く、次いで「緑」と「田園」が44.4%などとなっています。

問6 匠瑛市らしいまちづくりを進めていく上で、市として活用すべき地域資源は何だと思いますか。(自由記入)

■回答の分類

分 類	件数(件)
自然	70
植木	35
海	32
飯高檀林跡(飯高寺)	29
人・人とのふれあい	14
農産物・特産物	11
祭り	10
伝統・文化	9
空き家・空き地	8
史跡・文化財	7
高齢者・シルバー人材	7
祇園祭	7
改善点がある(医療の充実、交通手段の充実等)	7
気候	5
映画・CM撮影場所の提供・運営	4
学校教育	3
商店街	3
子育て環境	3
ホテル	2
ふれあいパーク八日市場	2
地域コミュニティ	2
神社仏閣	2
キャンプ場	2
暮らしやすさ	2
散歩のまち	2
その他	13

問7 匠瑛市の今後のまちづくりを進めていくにあたり、特に力を入れるべき項目は何だと思えますか。(5つまで○)



今後のまちづくりで特に力を入れるべき項目としては、「子育て支援の充実」が49.0%で最も高く、次いで「医療体制の充実」が48.3%、「人口減少対策・定住の促進」が35.8%などとなっています。

◇ 性別・年齢別に見た傾向（上位 5 回答）

（単位：％）

		1 番目	2 番目	3 番目	4 番目	5 番目
全体 (n=453)		子育て支援の 充実 49.0	医療体制の充 実 48.3	人口減少対策・ 定住の促進 35.8	高齢者福祉の 充実 27.8	雇用対策の充 実 23.4
性別	男性 (n=221)	子育て支援の 充実 48.0	人口減少対策・ 定住の促進 39.4	医療体制の充 実 37.6	雇用対策の充 実 28.5	農林水産業の 活性化 24.0
	女性 (n=229)	医療体制の充 実 58.5	子育て支援の 充実 50.2	高齢者福祉の 充実 34.9	人口減少対策・ 定住の促進 32.3	交通網の整備 23.6
年齢別	10・20 歳代 (n=72)	子育て支援の 充実 51.4	医療体制の充 実 36.1	人口減少対策・ 定住の促進 31.9	交通網の整備 30.6	雇用対策の充 実 29.2
	30 歳代 (n=98)	子育て支援の 充実 62.2	医療体制の充 実 49.0	人口減少対策・ 定住の促進 37.8	高齢者福祉の 充実 22.4	交通網の整備 21.4
	40 歳代 (n=140)	医療体制の充 実 55.7	子育て支援の 充実 47.1	人口減少対策・ 定住の促進 38.6	高齢者福祉の 充実 29.3	雇用対策の充 実 25.0
	50 歳代以上 (n=138)	医療体制の充 実 47.8	子育て支援の 充実 41.3	人口減少対策・ 定住の促進 34.1	高齢者福祉の 充実 32.6	健康・生きがい づくりの推進 30.4

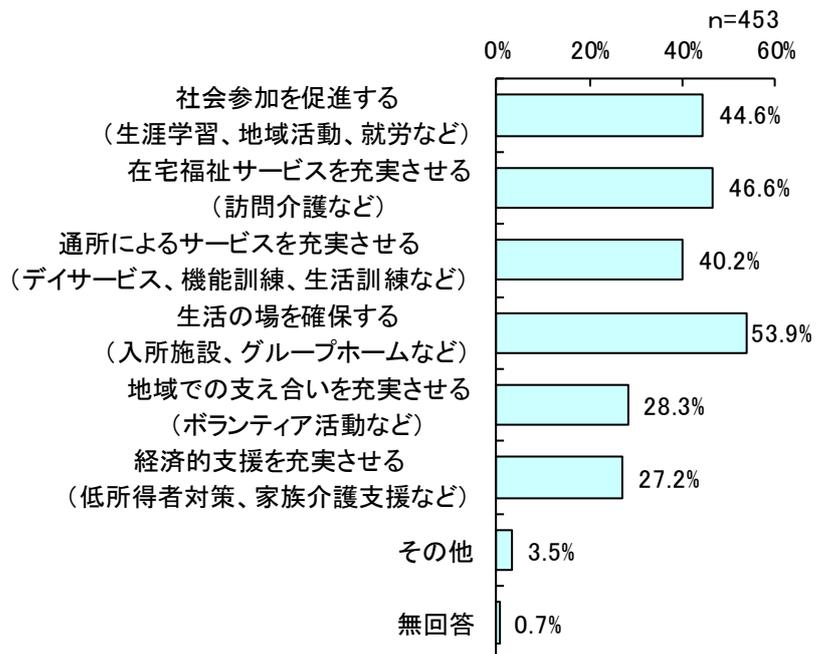
男女ともに「子育て支援の充実」、「医療体制の充実」、「人口減少対策・定住の促進」が上位項目となっています。

いずれの年代でも、「子育て支援の充実」、「医療体制の充実」、「人口減少対策・定住の促進」が上位 3 項目となっており、共通して力を入れるべきと捉えられていることが分かります。30 歳代以下では、「子育て支援の充実」が最も高く、40 歳代以上は「医療体制の充実」が最も高くなっています。

30 歳代以下では、「交通網の整備」が上位 5 項目に入っています。

問8 市の高齢者や障がいのある方に対する施策として、何が重要と考えますか。
(3つまで○)

高齢者や障がいのある方への重要な取組については、「生活の場を確保する」が53.9%と半数を超えて最も高く、次いで「在宅福祉サービスを充実させる」が46.6%、「社会参加を促進する」が44.6%などとなっています。



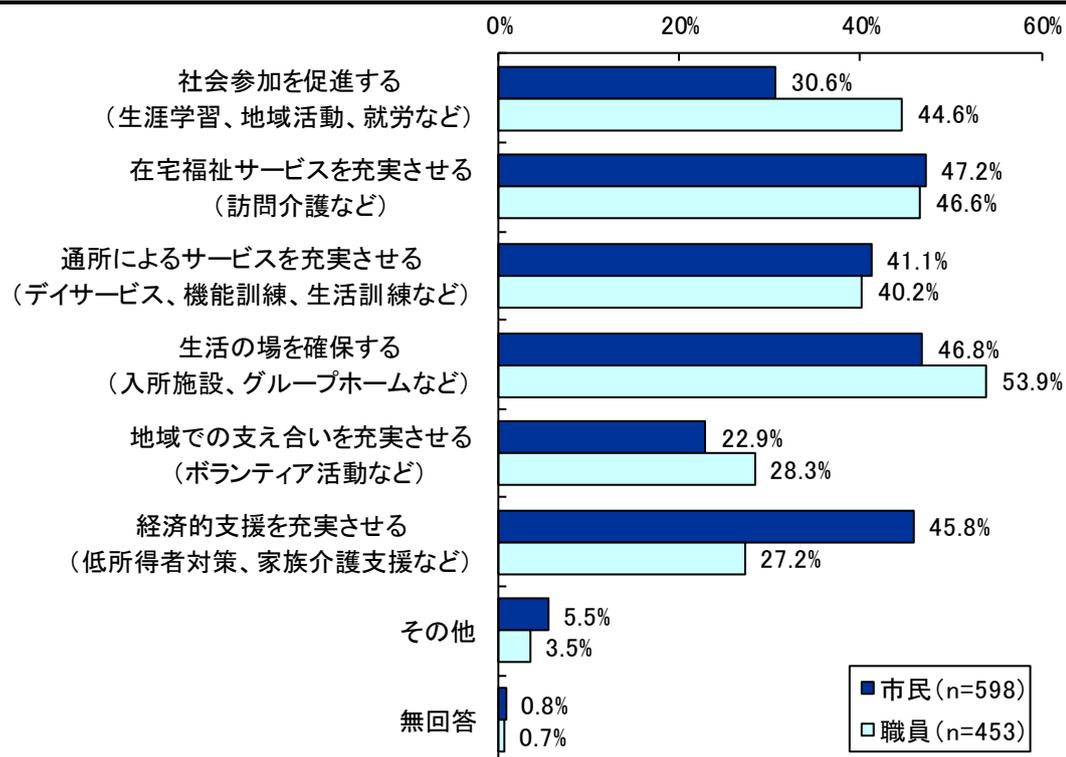
◇ 性別・年齢別に見た傾向

(単位：%)

	回答者数 (n)	社会参加を促進する (生涯学習、地域活動、就労など)	在宅福祉サービスを充実させる (訪問介護など)	通所によるサービスを充実させる (デイサービス、機能訓練、生活訓練など)	生活の場を確保する (入所施設、グループホームなど)	地域での支え合いを充実させる (ボランティア活動など)	経済的支援を充実させる (低所得者対策、家族介護支援など)	その他	無回答	
全体	453	44.6	46.6	40.2	53.9	28.3	27.2	3.5	0.7	
性別	男性	221	49.3	43.9	37.1	50.2	26.7	25.8	3.6	0.9
	女性	229	40.6	48.9	43.2	57.2	29.7	27.9	3.5	0.4
年齢	10・20歳代	72	50.0	43.1	37.5	54.2	22.2	23.6	2.8	0.0
	30歳代	98	53.1	41.8	42.9	43.9	29.6	32.7	2.0	0.0
	40歳代	140	40.7	48.6	35.0	55.7	30.7	23.6	3.6	0.7
	50歳代以上	138	39.9	49.3	44.9	60.1	28.3	29.7	5.1	0.0

50歳代以上では、「生活の場を確保する」が6割を超えて全体より高くなっています。30歳代以下では、「社会参加を促進する」が半数以上と全体より高くなっています。

◆ 市民意識調査と職員意識調査の比較

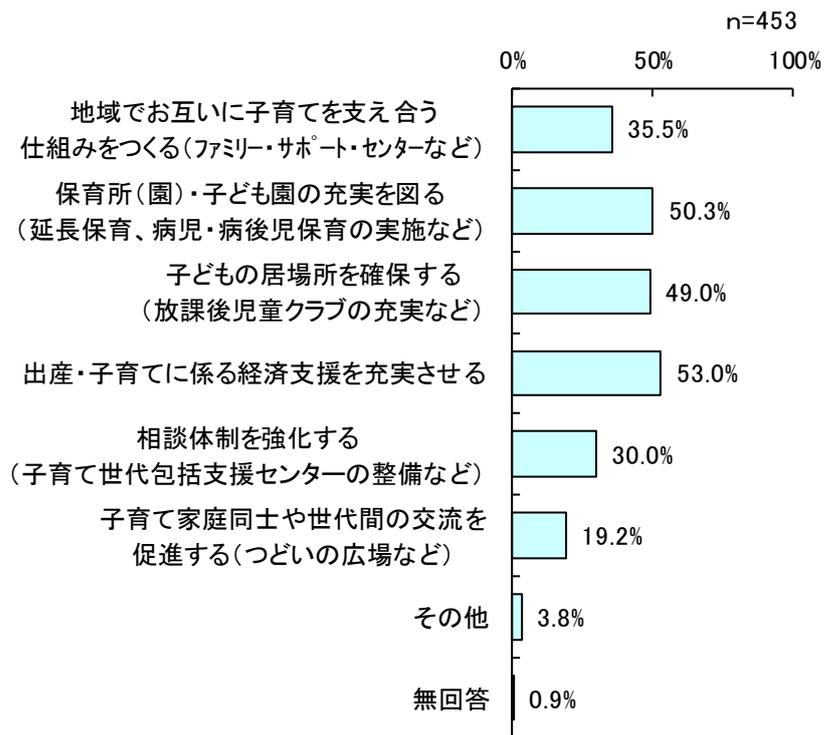


職員意識調査では、「社会参加を促進する」が 14.0 ポイント、「生活の場を確保する」が 7.1 ポイント、「地域での支え合いを充実させる」が 5.4 ポイント、それぞれ市民意識調査より高くなっています。

一方、市民意識調査では、「経済的支援を充実させる」が職員意識調査より 18.6 ポイント高くなっています。

問9 市の子育て支援への取組で、何が重要と考えますか。(3つまで○)

子育て支援への重要な取組については、「出産・子育てに係る経済支援を充実させる」が53.0%と最も高く、次いで「保育所(園)・子ども園の充実を図る」が50.3%、「子どもの居場所を確保する」が49.0%などとなっています。



◇ 性別・年齢別に見た傾向

(単位：%)

		回答者数(n)	地域でお互いに子育てを支え合う仕組みをつくる(ファミリー・サポート・センターなど)	保育所(園)・子ども園の充実を図る(延長保育、病児・病後児保育の実施など)	子どもの居場所を確保する(放課後児童クラブの充実など)	出産・子育てに係る経済支援を充実させる	相談体制を強化する(子育て世代包括支援センターの整備など)	子育て家庭同士や世代間の交流を促進する(つどいの広場など)	その他	無回答
全体		453	35.5	50.3	49.0	53.0	30.0	19.2	3.8	0.9
性別	男性	221	29.0	43.4	50.7	60.2	29.9	18.1	3.2	1.4
	女性	229	41.5	57.2	48.0	46.3	29.7	20.1	4.4	0.4
年齢	10・20歳代	72	29.2	47.2	41.7	62.5	40.3	16.7	5.6	0.0
	30歳代	98	35.7	51.0	54.1	62.2	23.5	26.5	4.1	0.0
	40歳代	140	35.0	47.1	52.9	54.3	25.0	11.4	2.9	0.7
	50歳代以上	138	39.1	54.3	45.7	42.0	34.8	23.9	3.6	0.7

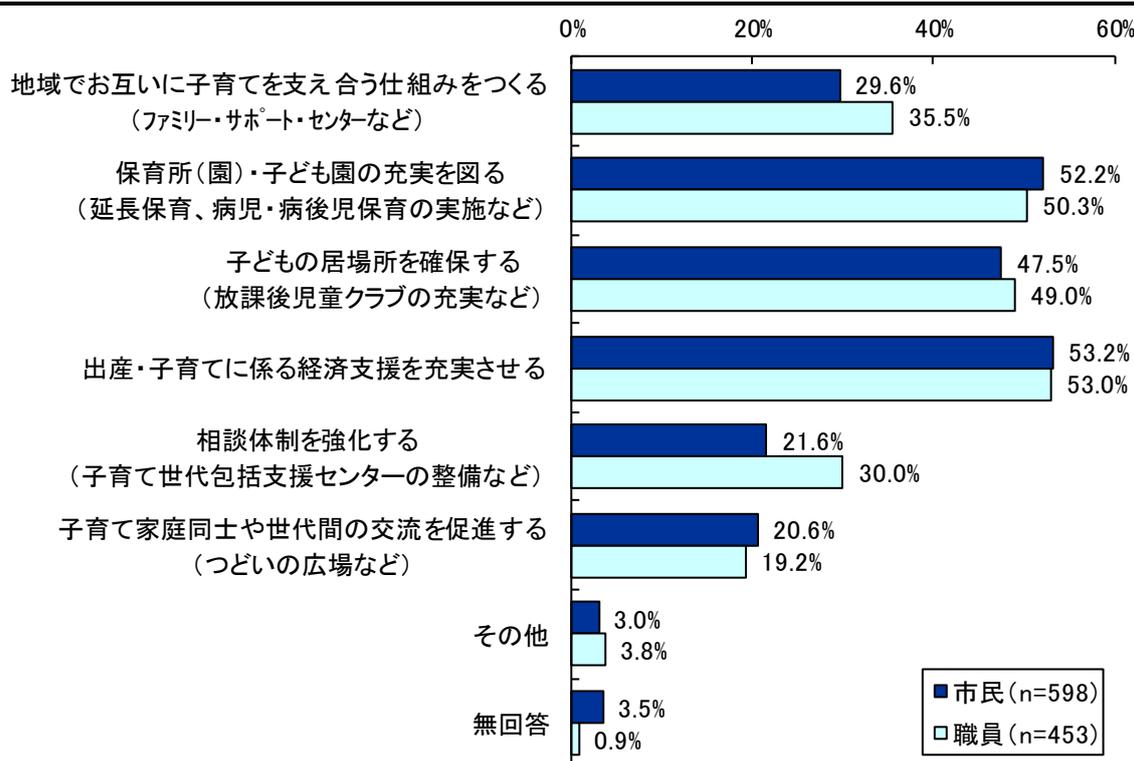
女性では、「保育所(園)・こども園の充実を図る」と「地域でお互いに子育てを支え合う仕組みをつくる」が全体より高くなっています。

一方、男性では、「出産・子育てに係る経済支援を充実させる」が6割で全体より高くなっています。

30歳代では、「出産・子育てに係る経済支援を充実させる」が6割を超えているのをはじめ、「子どもの居場所を確保する」、「子育て家庭同士や世代間の交流を促進する」の3項目で全体より高くなっています。

10・20歳代でも、「出産・子育てに係る経済支援を充実させる」が6割を超えており、これと「相談体制を強化する」の2項目が全体より高くなっています。

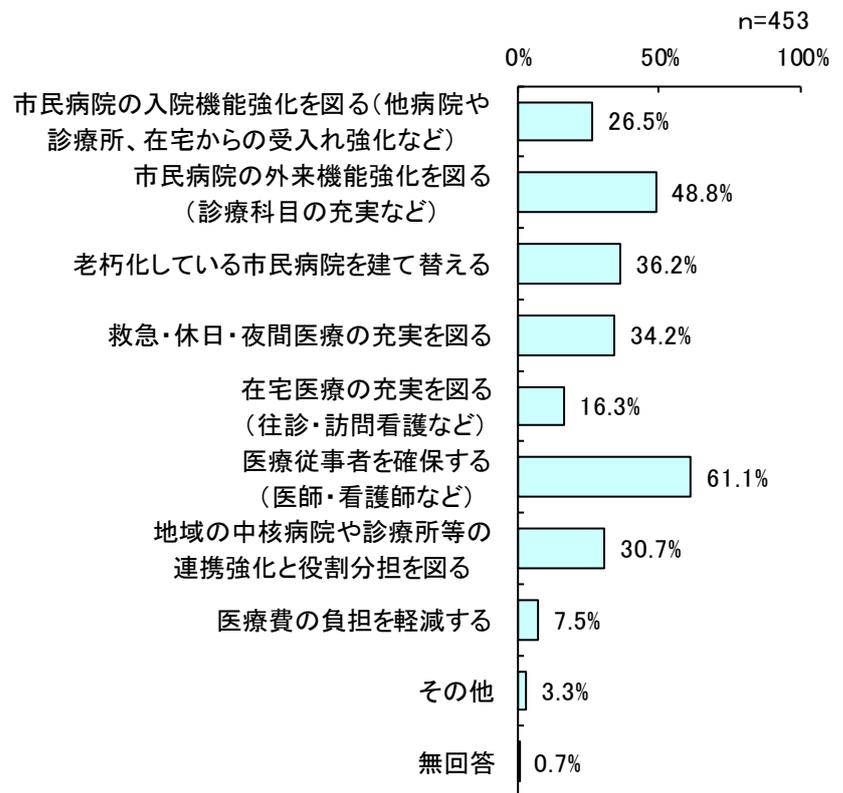
◆ 市民意識調査と職員意識調査の比較



市民意識調査と職員意識調査ともに「出産・子育てに係る経済支援を充実させる」が最も高く、次いで「保育所(園)・子ども園の充実を図る」、「子どもの居場所を確保する」の順となっており、この3項目はいずれも半数前後の回答を集めて高くなっています。

問 10 地域の医療環境への取組で、何が重要と考えますか。(3つまで○)

地域の医療環境への重要な取組については、「医療従事者を確保する」が61.1%で最も高く、次いで「市民病院の外来機能強化を図る」が48.8%、「老朽化している市民病院を建て替える」が36.2%などとなっています。



◇ 性別・年齢別に見た傾向

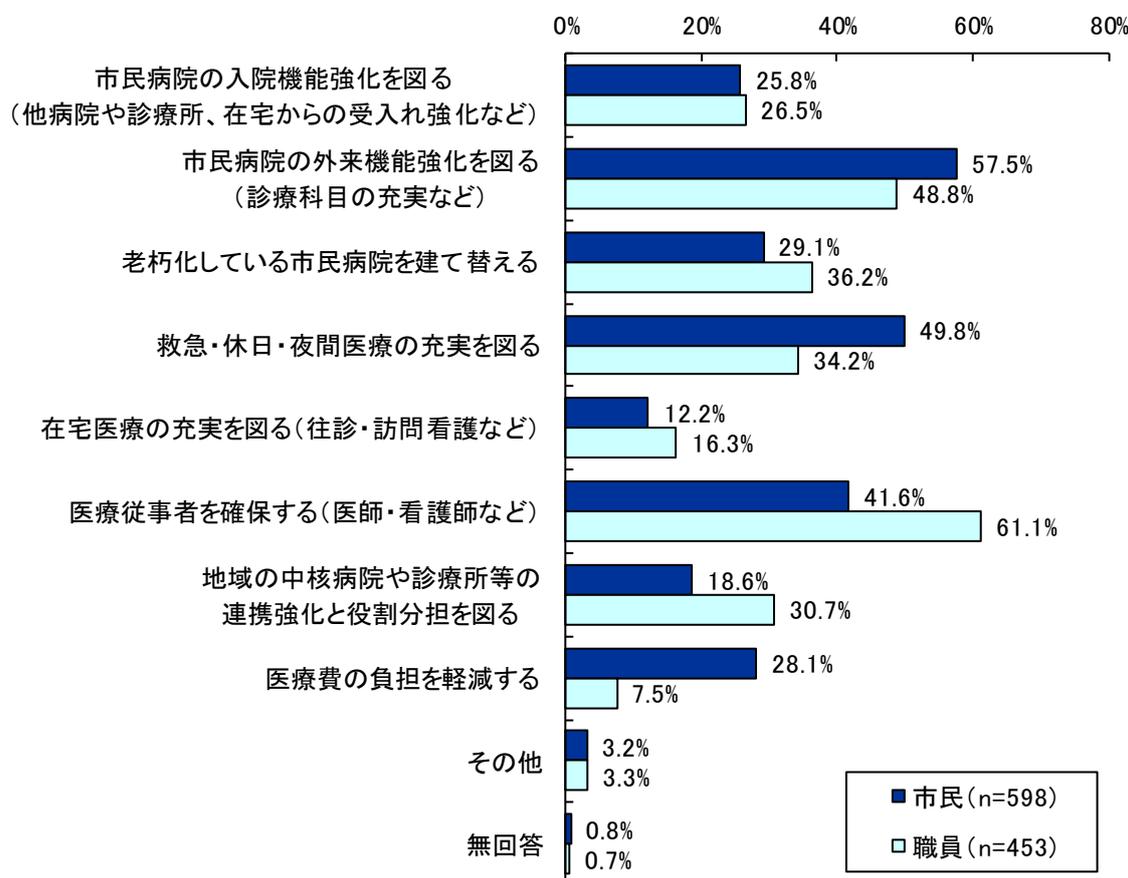
(単位：%)

		回答者数(n)	市民病院の入院機能強化を図る(他病院や診療所、在宅からの受入れ強化など)	市民病院の外来機能強化を図る(診療科目の充実など)	老朽化している市民病院を建て替える	救急・休日・夜間医療の充実を図る	在宅医療の充実を図る(往診・訪問看護など)	医療従事者を確保する(医師・看護師など)	地域の中核病院や診療所等の連携強化と役割分担を図る	医療費の負担を軽減する	その他	無回答
全体		453	26.5	48.8	36.2	34.2	16.3	61.1	30.7	7.5	3.3	0.7
性別	男性	221	24.9	48.9	31.7	30.3	14.0	60.2	36.2	6.3	2.7	1.4
	女性	229	28.4	48.9	40.6	37.6	18.3	61.6	25.8	8.3	3.9	0.0
年齢	10・20歳代	72	25.0	40.3	33.3	31.9	12.5	62.5	30.6	11.1	1.4	1.4
	30歳代	98	28.6	45.9	39.8	38.8	12.2	63.3	29.6	4.1	2.0	0.0
	40歳代	140	22.9	51.4	32.9	35.7	15.7	64.3	31.4	11.4	4.3	0.0
	50歳代以上	138	29.7	52.2	38.4	31.2	21.7	55.8	31.2	4.3	4.3	0.7

男性では、「地域の中核病院や診療所等の連携強化と役割分担を図る」が全体より高くなっています。

50歳代以上では、「在宅医療の充実を図る」が全体より高くなっています。

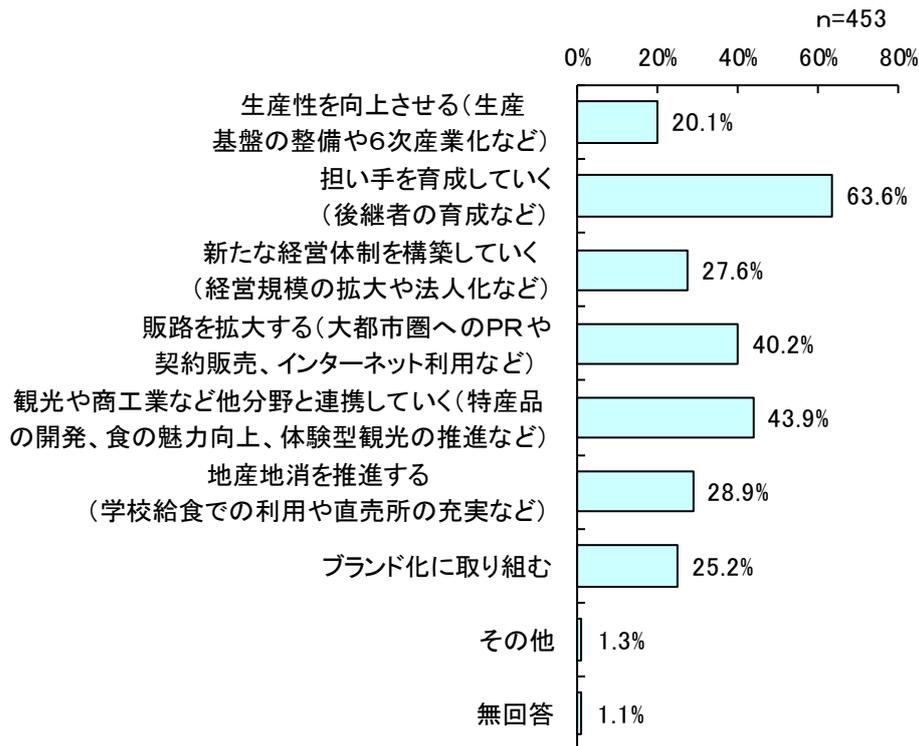
◆ 市民意識調査と職員意識調査の比較



職員意識調査では、「医療従事者を確保する」が 19.5 ポイント、「地域の中核病院や診療所等の連携強化と役割分担を図る」が 12.1 ポイント、「老朽化している市民病院を建て替える」が 7.1 ポイント、それぞれ市民意識調査より高く、医療体制の充実についての意向が高くなっています。

一方、市民意識調査では、「医療費の負担を軽減する」が 20.6 ポイント、「救急・休日・夜間医療の充実を図る」が 15.6 ポイント、「市民病院の外来機能強化を図る」が 8.7 ポイント、それぞれ職員意識調査より高く、実際の受診に関する面への意向が高くなっています。

問 11 市の農林水産業振興への取組で、何が重要と考えますか。(3つまで○)



農林水産業振興への重要な取組については、「担い手を育成していく」が 63.6%で最も高く、次いで「観光や商工業など他分野と連携していく」が 43.9%、「販路を拡大する」が 40.2%などとなっています。

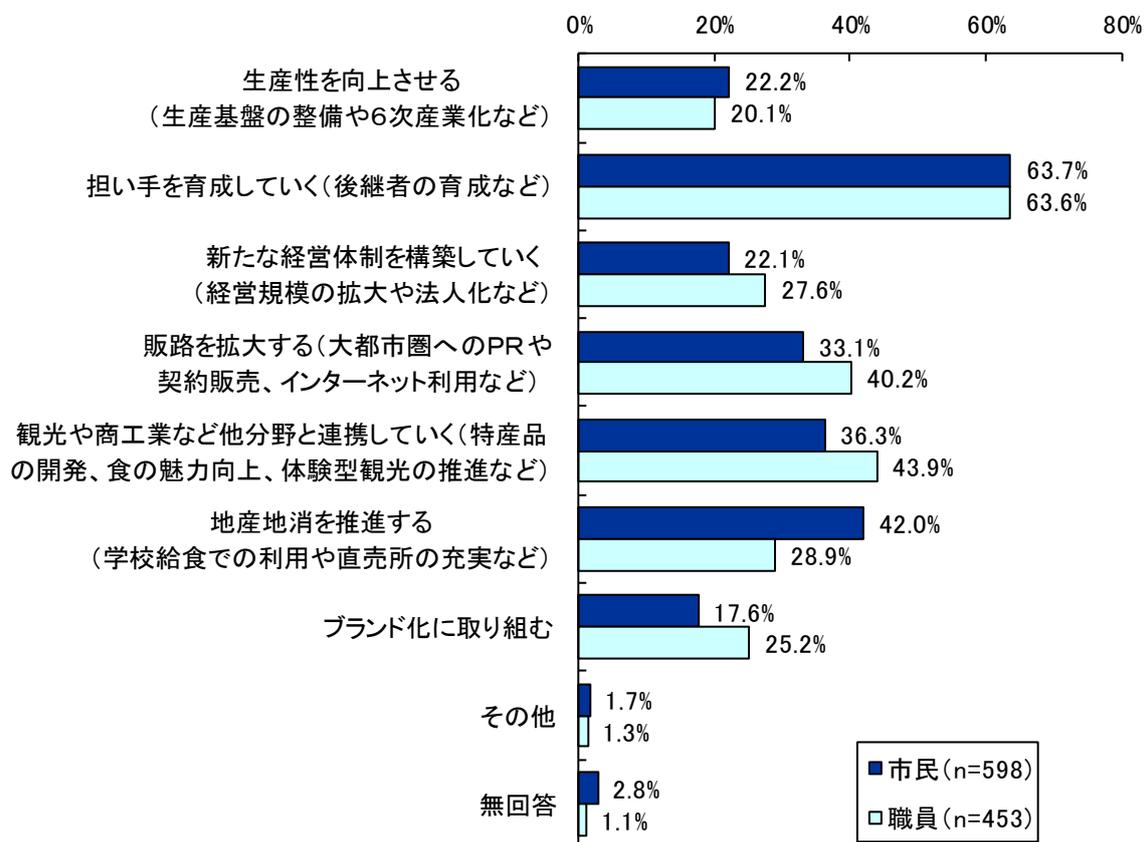
◇ 性別・年齢別に見た傾向

(単位：%)

		回答者数 (n)	生産性を向上させる(生産基盤の整備や6次産業化など)	担い手を育成していく(後継者の育成など)	新たな経営体制構築していく(経営規模の拡大や法人化など)	販路を拡大する(大都市圏へのPRや契約販売、インターネット利用など)	観光や商工業など他分野と連携していく(特産品の開発、食の魅力向上、体験型観光の推進)	地産地消を推進する(学校給食での利用や直売所の充実など)	ブランド化に取り組む	その他	無回答
全体		453	20.1	63.6	27.6	40.2	43.9	28.9	25.2	1.3	1.1
性別	男性	221	24.9	60.2	29.4	43.4	42.1	25.8	28.5	1.4	1.4
	女性	229	15.7	66.8	25.8	37.1	45.9	31.9	22.3	1.3	0.9
年齢	10・20歳代	72	22.2	69.4	23.6	37.5	38.9	31.9	26.4	0.0	0.0
	30歳代	98	20.4	64.3	26.5	37.8	46.9	35.7	26.5	2.0	0.0
	40歳代	140	21.4	58.6	25.0	39.3	41.4	26.4	25.7	2.1	1.4
	50歳代以上	138	17.4	65.9	31.9	44.9	47.1	26.1	23.2	0.7	1.4

10・20歳代では、「担い手を育成していく」が全体より高くなっています。30歳代では、「地産地消を推進する」が全体より高くなっています。

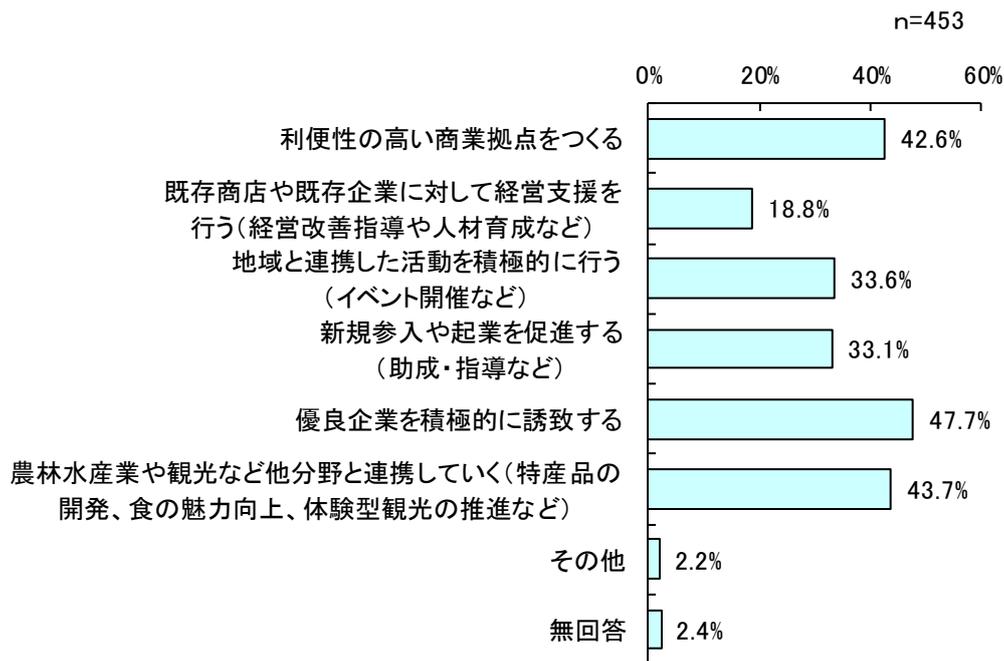
◆ 市民意識調査と職員意識調査の比較



職員意識調査では、「観光や商工業など他分野と連携していく」と「ブランド化に取り組む」が7.6ポイント、「販路を拡大する」が7.1ポイント、「新たな経営体制を構築していく」が5.5ポイント、それぞれ市民意識調査より高くなっています。

一方、市民意識調査では、「地産地消を推進する」が職員意識調査より13.1ポイント高くなっています。

問 12 市の商工業振興への取組で、何が重要と考えますか。(3つまで○)



商工業振興への重要な取組については、「優良企業を積極的に誘致する」が47.7%で最も高く、次いで「農林水産業や観光など他分野と連携していく」が43.7%、「利便性の高い商業拠点をつくる」が42.6%などとなっています。

◇ 性別・年齢別に見た傾向

(単位：%)

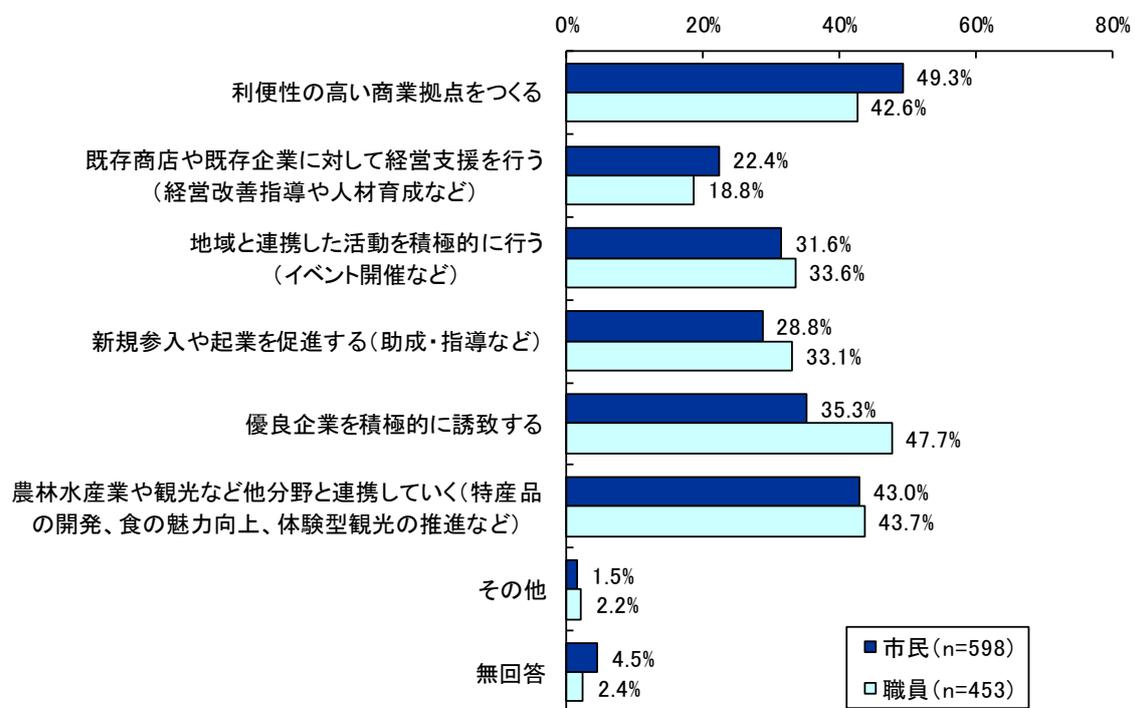
	回答者数(n)	利便性の高い商業拠点をつくる	既存商店や既存企業に対して経営支援を行う(経営改善指導や人材育成など)	地域と連携した活動を積極的に行う(イベント開催など)	新規参入や起業を促進する(助成・指導など)	優良企業を積極的に誘致する	農林水産業や観光など他分野と連携していく(特産品の開発、食の魅力向上、体験型観光の推進など)	その他	無回答	
全体	453	42.6	18.8	33.6	33.1	47.7	43.7	2.2	2.4	
性別	男性	221	43.9	16.3	22.2	43.4	54.3	43.4	2.7	1.4
	女性	229	41.5	21.4	44.5	23.1	41.0	44.1	1.7	3.5
年齢	10・20歳代	72	43.1	20.8	40.3	47.2	54.2	38.9	0.0	0.0
	30歳代	98	42.9	23.5	32.7	32.7	52.0	45.9	3.1	1.0
	40歳代	140	42.1	17.9	29.3	33.6	47.1	39.3	2.1	3.6
	50歳代以上	138	42.8	15.2	35.5	25.4	41.3	50.0	2.9	2.9

男性では、「優良企業を積極的に誘致する」が半数を超え、「新規参入や起業を促進する」が全体より高くなっています。

一方、女性では、「地域と連携した活動を積極的に行う」が全体より高くなっています。

10・20歳代以下では、「優良企業を積極的に誘致する」が半数を超え、全体より高くなっています。また、10・20歳代では、「新規参入や起業を促進する」、「地域と連携した活動を積極的に行う」が全体より高くなっています。50歳代以上では、「農林水産業や観光など他分野と連携していく」が半数と、全体より高くなっています。

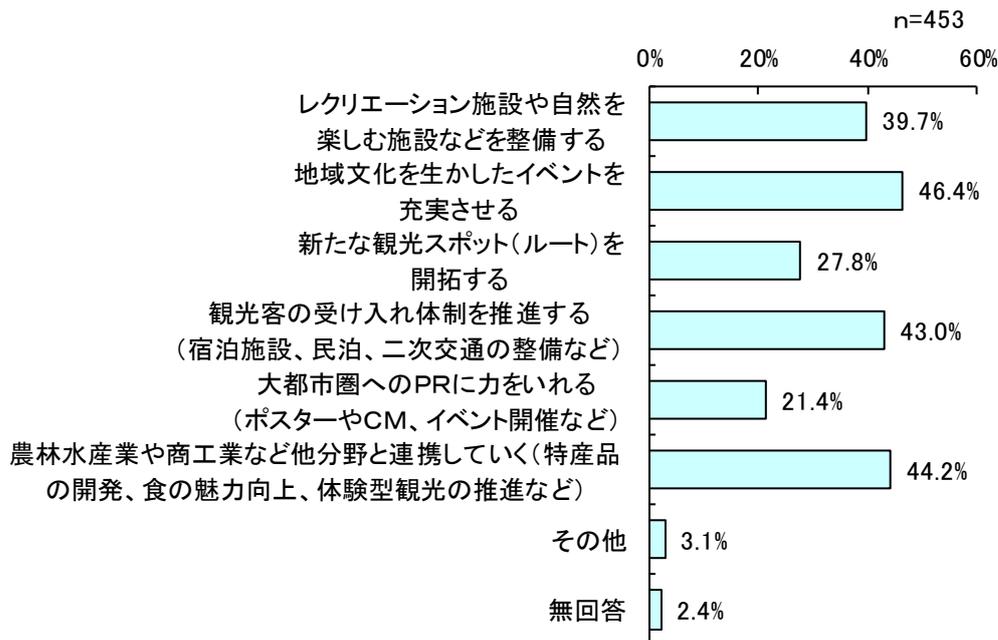
◆ 市民意識調査と職員意識調査の比較



いずれも上位3回答は同じ項目が選ばれていますが、職員意識調査では、「優良企業を積極的に誘致する」が市民意識調査より12.4ポイント高くなっています。

一方、市民意識調査では、「利便性の高い商業拠点をつくる」が職員意識調査より6.7ポイント高くなっています。

問 13 市の観光振興への取組で、何が重要と考えますか。(3つまで○)



観光振興への重要な取組については、「地域文化を生かしたイベントを充実させる」が46.4%で最も高く、次いで「農林水産業や商工業など他分野と連携していく」が44.2%、「観光客の受け入れ体制を推進する」が43.0%などとなっています。

◇ 性別・年齢別に見た傾向

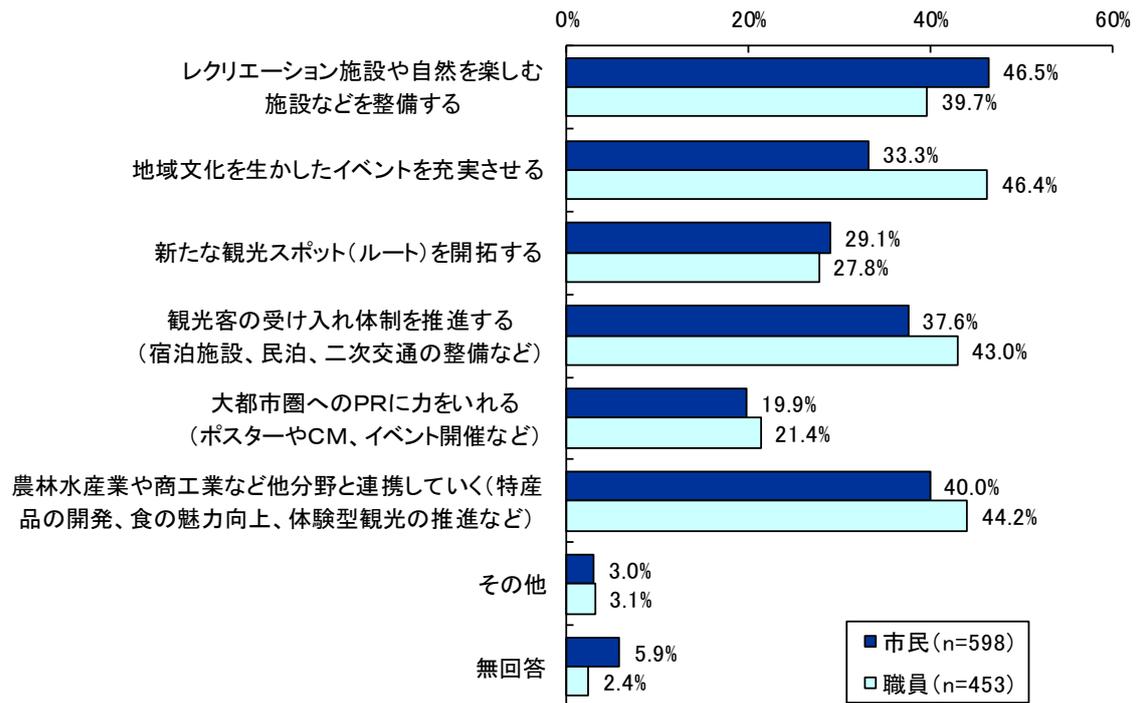
(単位：%)

		回答者数 (n)	レクリエーション施設や自然を楽しむ施設などを整備する	地域文化を生かしたイベントを充実させる	新たな観光スポット(ルート)を開拓する	観光客の受け入れ体制を推進する(宿泊施設、民泊、二次交通の整備など)	大都市圏へのPRに力を入れる(ポスターやCM、イベント開催など)	農林水産業や商工業など他分野と連携していく(特産品の開発、食の魅力向上、体験型観光の推進など)	その他	無回答
全体		453	39.7	46.4	27.8	43.0	21.4	44.2	3.1	2.4
性別	男性	221	35.3	37.1	29.0	46.6	25.8	45.7	4.1	1.8
	女性	229	44.5	55.0	25.8	40.2	17.5	42.8	2.2	3.1
年齢	10・20歳代	72	36.1	54.2	29.2	43.1	29.2	41.7	1.4	1.4
	30歳代	98	43.9	49.0	30.6	52.0	13.3	44.9	3.1	1.0
	40歳代	140	39.3	42.9	24.3	43.6	18.6	38.6	4.3	2.1
	50歳代以上	138	39.1	44.2	27.5	37.7	26.1	51.4	2.9	3.6

女性では、「地域文化を生かしたイベントを充実させる」が半数を超えて、全体より高くなっています。

10・20歳代では、「地域文化を生かしたイベントを充実させる」、30歳代では「観光客の受け入れ体制を推進する」、50歳代以上では「農林水産業や観光など他分野と連携していく」がそれぞれ半数を超え、全体より高くなっています。

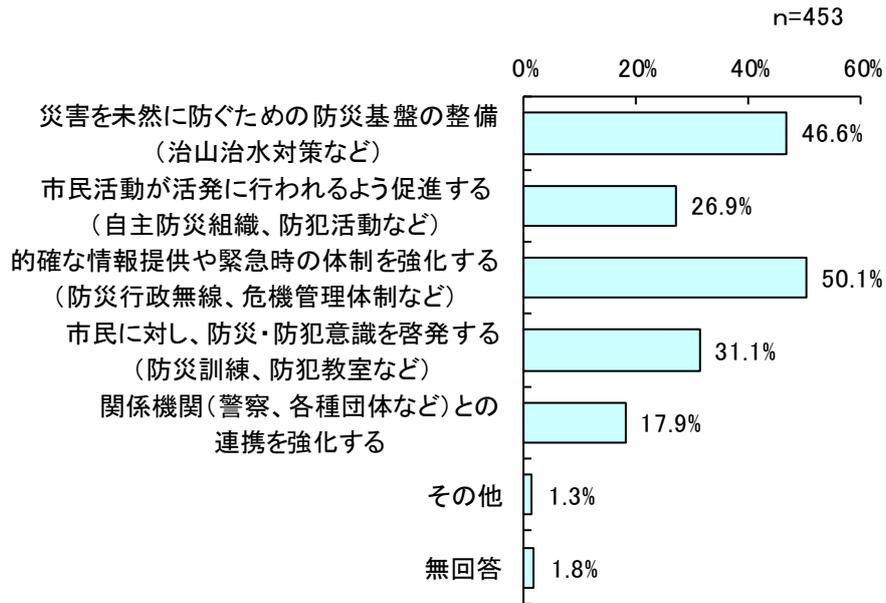
◆ 市民意識調査と職員意識調査の比較



職員意識調査では、「地域文化を生かしたイベントを充実させる」が13.1ポイント、「観光客の受け入れ体制を推進する」が5.4ポイント、それぞれ市民意識調査より高くなっています。

一方、市民意識調査では、「レクリエーション施設や自然を楽しむ施設などを整備する」が職員意識調査より6.8ポイント高くなっています。

問 14 市の安全なまちづくりへの取組で、何が重要と考えますか。(2つまで○)



安全なまちづくりへの重要な取組については、「的確な情報提供や緊急時の体制を強化する」が50.1%で最も高く、次いで「災害を未然に防ぐための防災基盤の整備」が46.6%、「市民に対し、防災・防犯意識を啓発する」が31.1%などとなっています。

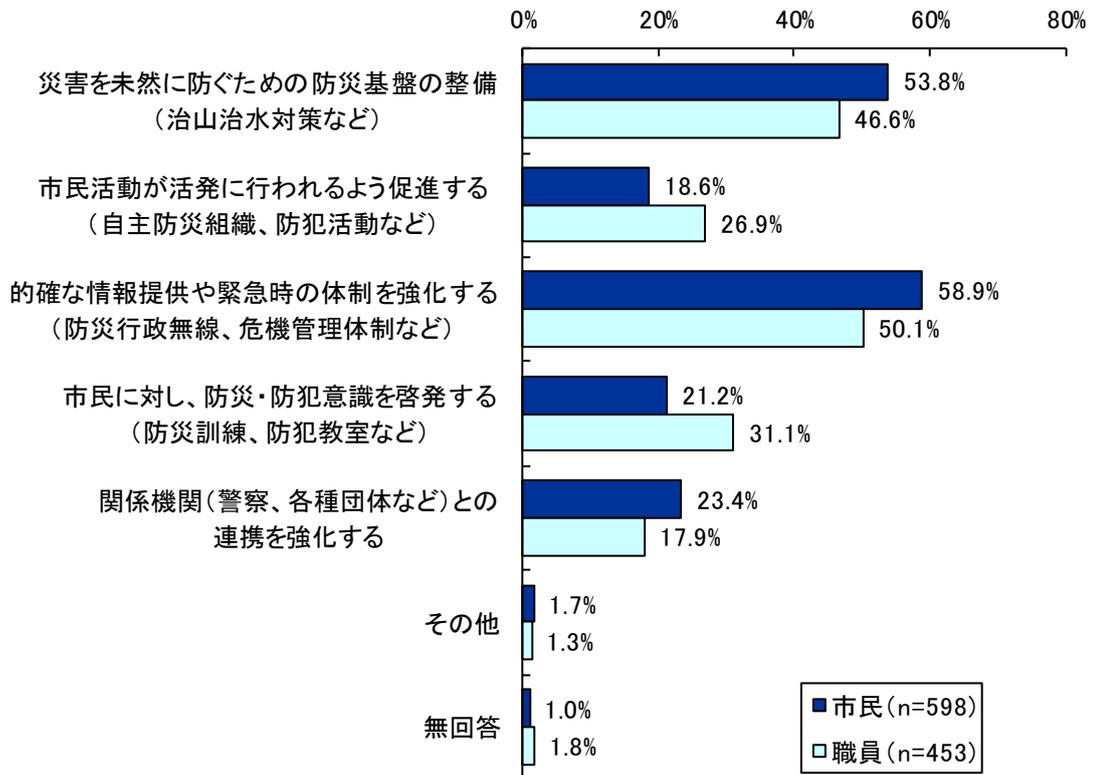
◇ 性別・年齢別に見た傾向

(単位：%)

	回答者数 (n)	災害を未然に防ぐための防災基盤の整備(治山治水対策など)	市民活動が活発に行われるよう促進する(自主防災組織、防犯活動など)	的確な情報提供や緊急時の体制を強化する(防災行政無線、危機管理体制など)	市民に対し、防災・防犯意識を啓発する(防災訓練、防犯教室など)	関係機関(警察、各種団体など)との連携を強化する	その他	無回答	
全体	453	46.6	26.9	50.1	31.1	17.9	1.3	1.8	
性別	男性	221	41.6	31.7	46.2	31.7	19.5	2.7	1.4
	女性	229	50.7	22.7	53.7	30.6	16.6	0.0	2.2
年齢	10・20歳代	72	52.8	19.4	51.4	29.2	22.2	1.4	1.4
	30歳代	98	43.9	32.7	45.9	34.7	21.4	1.0	1.0
	40歳代	140	45.0	26.4	47.9	29.3	18.6	2.1	1.4
	50歳代以上	138	47.1	26.8	54.3	32.6	13.0	0.7	2.2

10・20歳代では、「災害を未然に防ぐための防災基盤の整備」が半数を超えて全体より高くなっています。30歳代では、「市民活動が活発に行われるよう促進する」が全体より高くなっています。

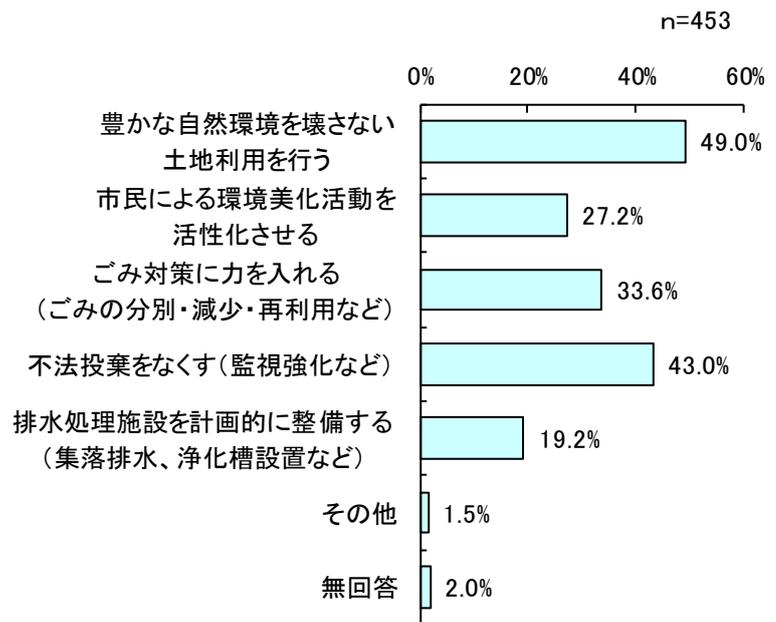
◆ 市民意識調査と職員意識調査の比較



市民意識調査も職員意識調査もそれぞれ「的確な情報提供や緊急時の体制を強化する」が1番目、「災害を未然に防ぐための防災基盤の整備」が2番目となっており、これらが特に重視されていることが分かります。

問 15 市の自然環境保全への取組で、何が重要と考えますか。(2つまで○)

自然環境保全への重要な取組については、「豊かな自然環境を壊さない土地利用を行う」が49.0%で最も高く、次いで「不法投棄をなくす」が43.0%、「ごみ対策に力を入れる」が33.6%などとなっています。



◇ 性別・年齢別に見た傾向

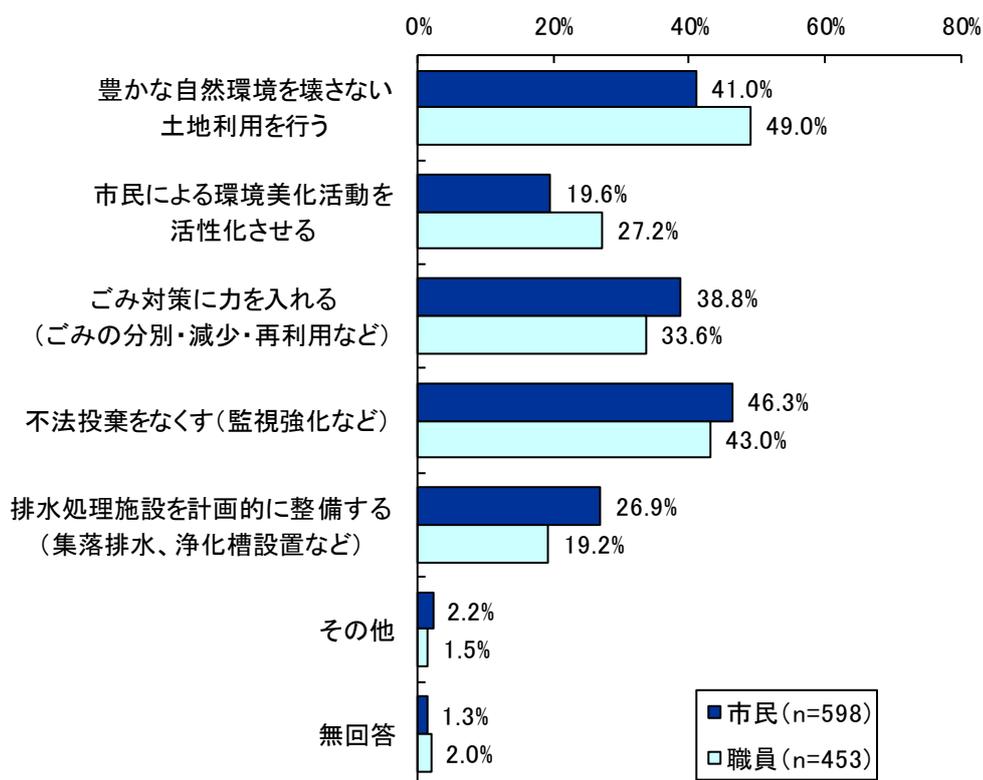
(単位：%)

	回答者数 (n)	豊かな自然環境を壊さない土地利用を行う	市民による環境美化活動を活性化させる	ごみ対策に力を入れる(ごみの分別・減少・再利用など)	不法投棄をなくす(監視強化など)	排水処理施設を計画的に整備する(集落排水、浄化槽設置など)	その他	無回答	
全体	453	49.0	27.2	33.6	43.0	19.2	1.5	2.0	
性別	男性	221	42.5	27.6	36.2	46.2	18.1	2.3	1.8
	女性	229	55.5	27.1	30.6	40.2	20.1	0.9	2.2
年齢	10・20 歳代	72	47.2	22.2	36.1	48.6	18.1	1.4	0.0
	30 歳代	98	42.9	29.6	42.9	39.8	25.5	0.0	1.0
	40 歳代	140	52.1	27.9	30.0	41.4	12.9	2.9	3.6
	50 歳代以上	138	52.9	26.8	29.0	44.2	21.7	1.4	1.4

女性では、「豊かな自然環境を壊さない土地利用を行う」が半数を超えて、全体より高くなっています。

10・20 歳代では、「不法投棄をなくす」が、30 歳代では、「ごみ対策に力を入れる」と「排水処理設備を計画的に整備する」が、それぞれ全体より高くなっています。

◆ 市民意識調査と職員意識調査の比較

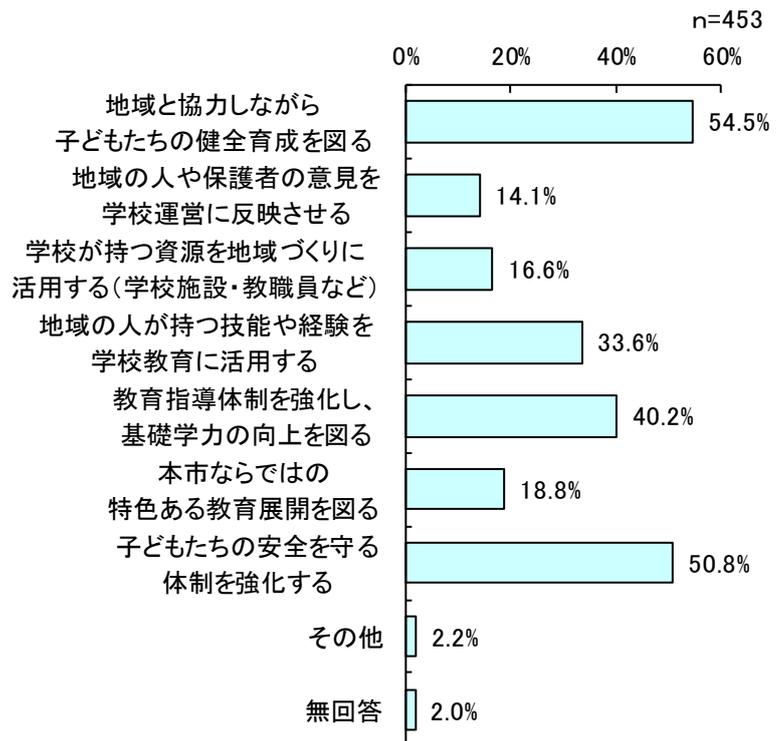


職員意識調査では、「豊かな自然環境を壊さない土地利用を行う」が 8.0 ポイント、「市民による環境美化活動を活性化させる」が 7.6 ポイント、それぞれ市民意識調査より高くなっています。

一方、市民意識調査では、「排水処理施設を計画的に整備する」が 7.7 ポイント、「ごみ対策に力を入れる」が 5.2 ポイント、職員意識調査より高くなっています。

問 16 小・中学校運営において、何が重要な取組と考えますか。(3つまで○)

小・中学校運営における重要な取組については、「地域と協力しながら子どもたちの健全育成を図る」が54.5%で最も高く、次いで「子どもたちの安全を守る体制を強化する」が50.8%、「教育指導体制を強化し、基礎学力の向上を図る」が40.2%などとなっています。



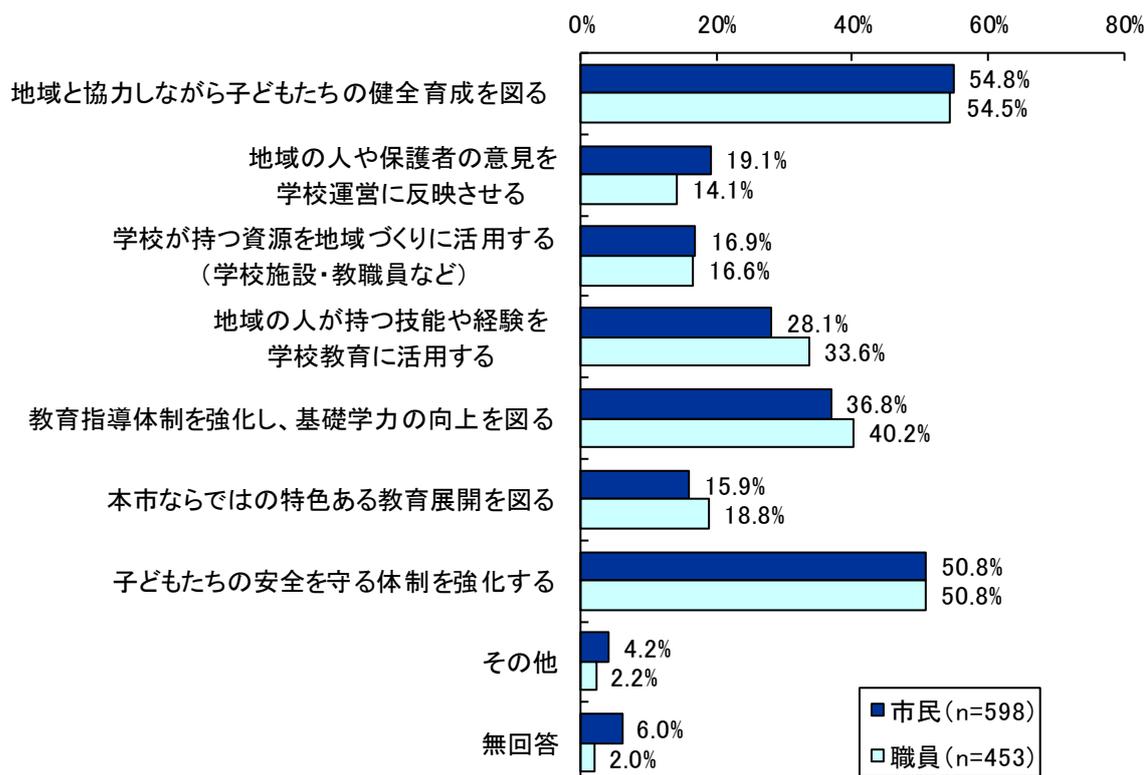
◇ 性別・年齢別に見た傾向

(単位：%)

	回答者数 (n)	地域と協力しながら子どもたちの健全育成を図る	子どもたちの安全を守る体制を強化する	教育指導体制を強化し、基礎学力の向上を図る	地域の人や保護者の意見を学校運営に反映させる	学校が持つ資源を地域づくりに活用する(学校施設・教職員など)	地域の人が持つ技能や経験を学校教育に活用する	本市ならではの特色ある教育展開を図る	その他	無回答
全体	453	54.5	50.8	40.2	33.6	18.8	16.6	14.1	2.2	2.0
性別	男性	221	54.3	48.4	39.4	32.6	19.5	17.2	3.6	1.8
	女性	229	55.0	53.3	41.0	34.9	17.9	15.7	0.9	2.2
年齢	10・20 歳代	72	52.8	54.2	47.2	29.2	12.5	12.5	2.8	0.0
	30 歳代	98	50.0	56.1	42.9	34.7	17.3	22.4	2.0	1.0
	40 歳代	140	55.0	47.9	38.6	31.4	22.1	13.6	2.1	3.6
	50 歳代以上	138	60.1	50.0	37.0	37.0	18.8	15.9	2.2	1.4

50 歳代以上では、「地域と協力しながら子どもたちの健全育成を図る」が6割を超えて全体より高くなっています。10・20 歳代では、「教育指導体制を強化し、基礎学力の向上を図る」が、30 歳代では、「学校が持つ資源を地域づくりに活用する」と「子どもたちの安全を守る体制を強化する」が、それぞれ全体より高くなっています。

◆ 市民意識調査と職員意識調査の比較

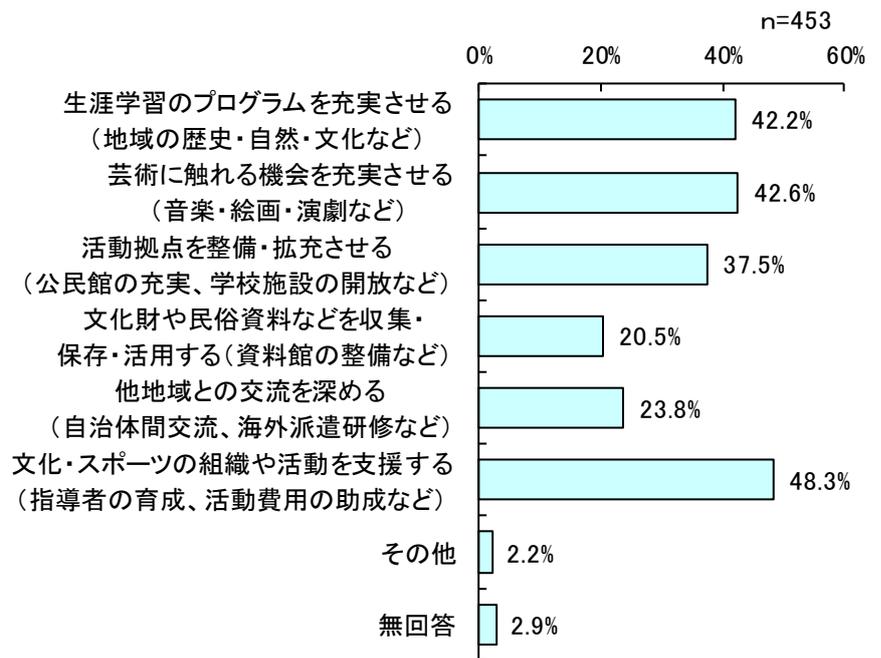


市民意識調査と職員意識調査ともに「地域と協力しながら子どもたちの健全育成を図る」が最も高く、次いで「子どもたちの安全を守る体制を強化する」となっており、この2項目が半数を超えています。3番目も両意識調査で「教育指導体制を強化し、基礎学力の向上を図る」となっています。

問 17 市の生涯学習・スポーツ、文化活動への取組で、何が重要と考えますか。

(3つまで○)

生涯学習・スポーツ、文化活動への重要な取組については、「文化・スポーツの組織や活動を支援する」が48.3%と最も高く、次いで「芸術に触れる機会を充実させる」が42.6%、「生涯学習のプログラムを充実させる」が42.2%などとなっています。



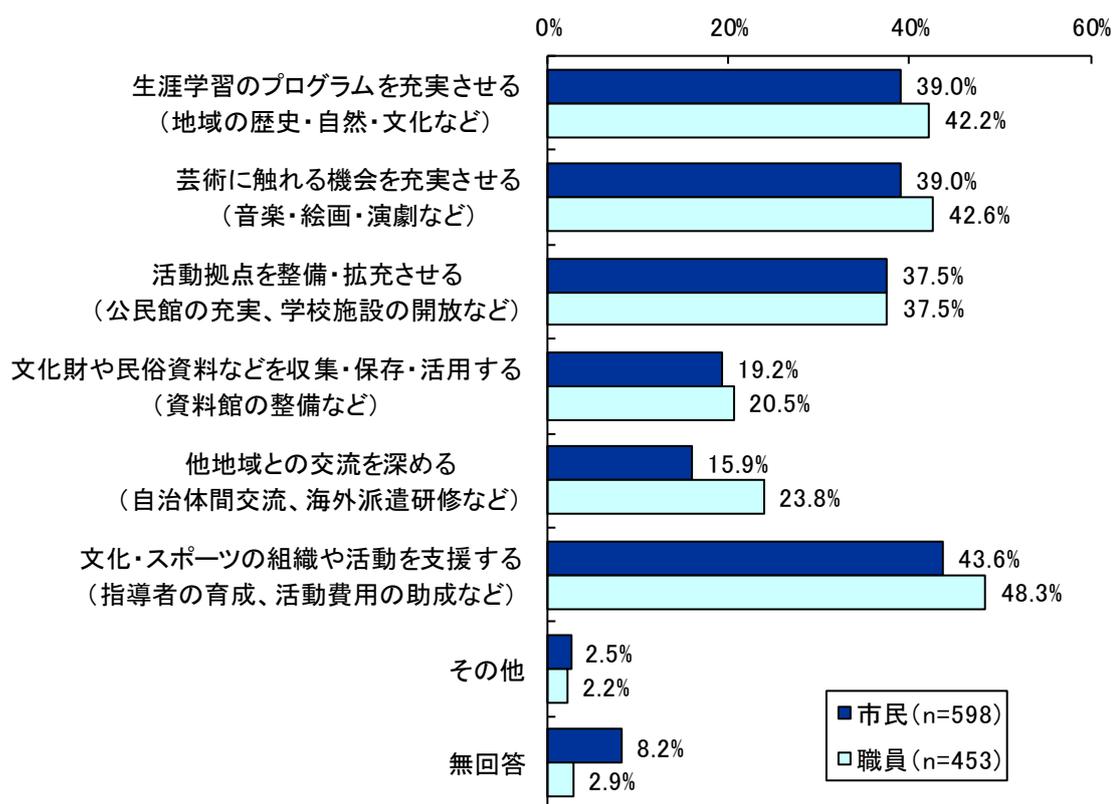
◇ 性別・年齢別に見た傾向

(単位：%)

		回答者数 (n)	生涯学習のプログラムを充実させる (地域の歴史・自然・文化など)	芸術に触れる機会を充実させる (音楽・絵画・演劇など)	活動拠点を整備・拡充させる (公民館の充実、学校施設の開放など)	文化財や民俗資料などを収集・ 保存・活用する(資料館の整備など)	他地域との交流を深める (自治体間交流、海外派遣研修など)	文化・スポーツの組織や活動を支援する (指導者の育成、活動費用の助成など)	その他	無回答
全体		453	42.2	42.6	37.5	20.5	23.8	48.3	2.2	2.9
性別	男性	221	39.8	39.4	37.6	23.5	23.1	48.4	1.4	2.7
	女性	229	44.5	45.9	37.6	17.9	24.9	48.5	3.1	3.1
年齢	10・20歳代	72	36.1	43.1	41.7	19.4	20.8	48.6	0.0	2.8
	30歳代	98	41.8	32.7	37.8	25.5	29.6	51.0	3.1	1.0
	40歳代	140	42.1	42.1	37.1	14.3	27.9	47.9	1.4	5.0
	50歳代以上	138	46.4	49.3	34.8	23.9	17.4	47.8	3.6	1.4

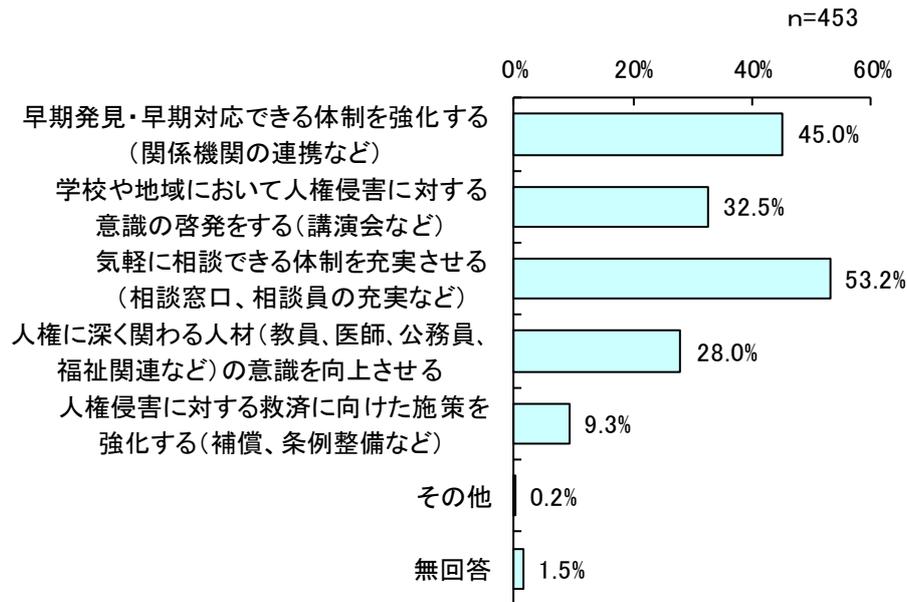
30歳代では、「他地域との交流を深める」と「文化財や民俗資料などを収集・保存・活用する」が、50歳代以上では、「芸術に触れる機会を充実させる」が、それぞれ全体より高くなっています。

◆ 市民意識調査と職員意識調査の比較



市民意識調査と職員意識調査ともに「文化・スポーツの組織や活動を支援する」が4割台で最も高く、次いで「芸術に触れる機会を充実させる」、「生涯学習のプログラムを充実させる」の順となっています。

問 18 市の人権問題への取組で、何が重要と考えますか。(2つまで○)



人権問題への重要な取組については、「気軽に相談できる体制を充実させる」が53.2%で最も高く、次いで「早期発見・早期対応できる体制を強化する」が45.0%、「学校や地域において人権侵害に対する意識の啓発をする」が32.5%などとなっています。

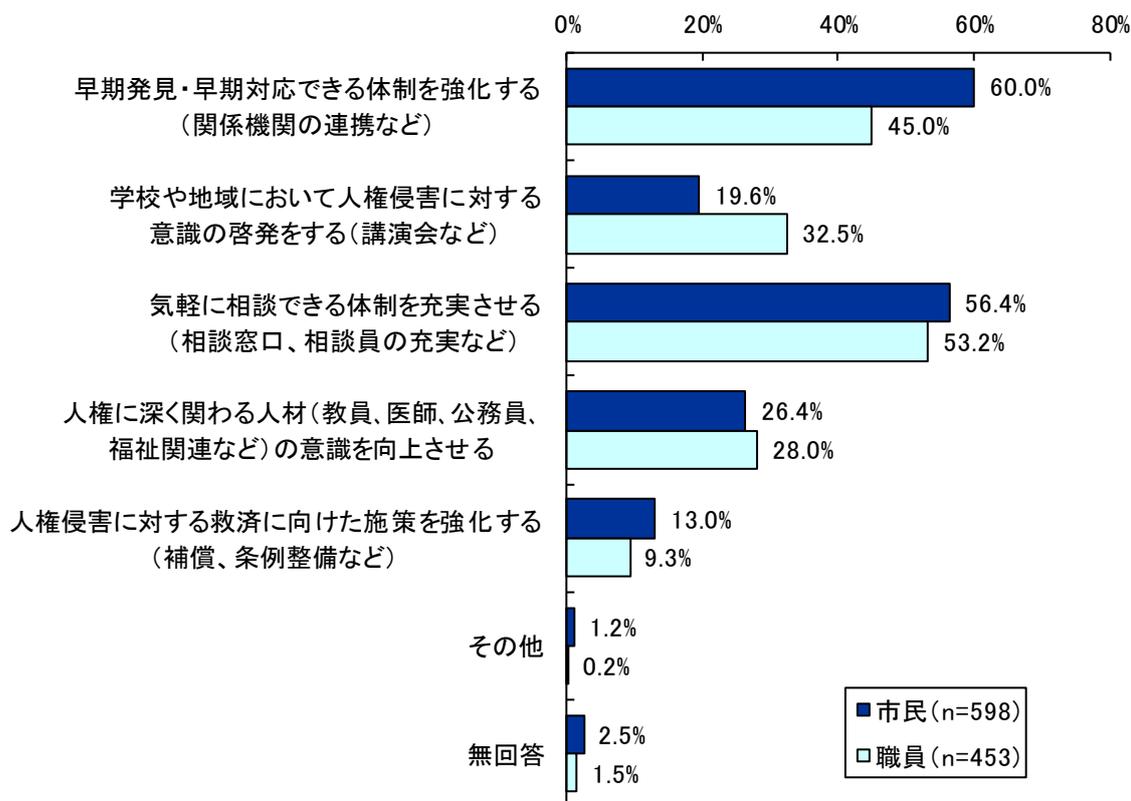
◇ 性別・年齢別に見た傾向

(単位：%)

	回答者数(n)	早期発見・早期対応できる体制を強化する(関係機関の連携など)	学校や地域において人権侵害に対する意識の啓発をする(講演会など)	気軽に相談できる体制を充実させる(相談窓口、相談員の充実など)	人権に深く関わる人材(教員、医師、公務員、福祉関連など)の意識を向上させる	人権侵害に対する救済に向けた施策を強化する(補償、条例整備など)	その他	無回答	
全体	453	45.0	32.5	53.2	28.0	9.3	0.2	1.5	
性別	男性	221	44.8	32.6	51.6	27.1	8.1	0.5	2.3
	女性	229	44.5	32.8	55.0	28.8	10.5	0.0	0.9
年齢	10・20歳代	72	50.0	25.0	59.7	20.8	11.1	0.0	0.0
	30歳代	98	44.9	40.8	48.0	34.7	10.2	0.0	1.0
	40歳代	140	42.9	29.3	49.3	29.3	10.7	0.7	2.1
	50歳代以上	138	44.9	33.3	58.7	26.1	6.5	0.0	1.4

10・20歳代と50歳代以上では、「気軽に相談できる体制を充実させる」が約6割で全体より高くなっています。30歳代では、「学校や地域において人権侵害に対する意識の啓発をする」と「人権に深く関わる人材の意識を向上させる」が、それぞれ全体より高くなっています。

◆ 市民意識調査と職員意識調査の比較

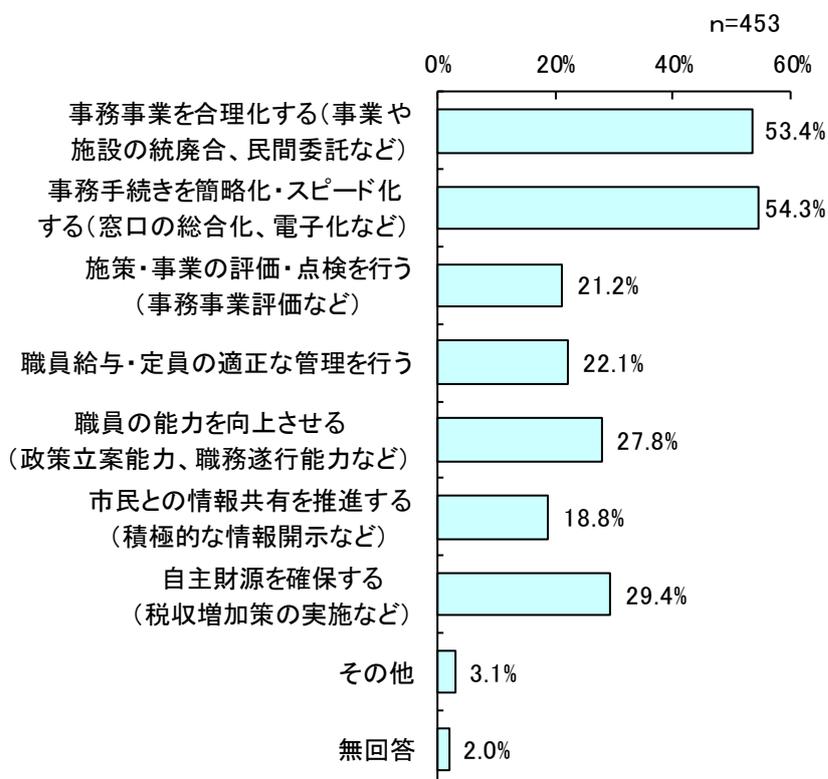


職員意識調査では、「学校や地域において人権侵害に対する意識の啓発をする」が市民意識調査より 12.9 ポイント高くなっているのに対し、市民意識調査では、「早期発見・早期対応できる体制を強化する」が職員意識調査より 15.0 ポイント高くなっています。

(5) 行財政改革

問 19 市の行財政改革の取組で、何が重要と考えますか。(3つまで○)

市の行財政改革への重要な取組については、「事務手続きを簡略化・スピード化する」が54.3%で最も高く、次いで「事務事業を合理化する」が53.4%、「自主財源を確保する」が29.4%となっています。



◇ 性別・年齢別に見た傾向

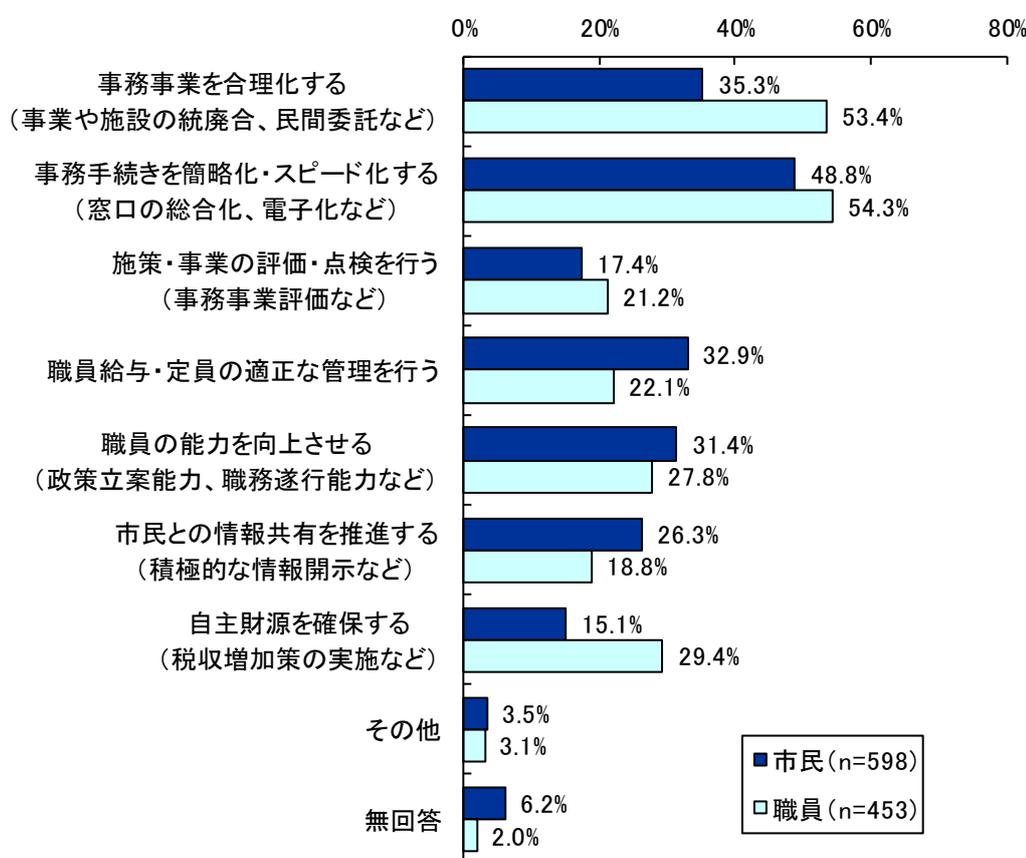
(単位：%)

		回答者数 (n)	事務事業を合理化する (事業や施設の統廃合、民間委託など)	事務手続きを簡略化・スピード化する (窓口の総合化、電子化など)	施策・事業の評価・点検を行う (事務事業評価など)	職員給与・定員の適正な管理を行う	職員の能力を向上させる (政策立案能力、職務遂行能力など)	市民との情報共有を推進する (積極的な情報開示など)	自主財源を確保する (税収増加策の実施など)	その他	無回答
全体		453	53.4	54.3	21.2	22.1	27.8	18.8	29.4	3.1	2.0
性別	男性	221	59.3	51.6	19.0	19.9	29.9	15.8	35.7	3.6	2.7
	女性	229	48.0	56.3	23.6	24.0	26.2	21.8	23.6	2.6	1.3
年齢	10・20歳代	72	50.0	55.6	16.7	33.3	25.0	15.3	30.6	1.4	0.0
	30歳代	98	64.3	45.9	19.4	27.6	40.8	14.3	31.6	3.1	1.0
	40歳代	140	53.6	57.9	18.6	20.0	21.4	15.7	30.0	4.3	2.9
	50歳代以上	138	47.8	55.8	26.8	14.5	27.5	27.5	26.8	2.9	2.2

男性では、「自主財源を確保する」と「事務事業を合理化する」が全体より高くなっています。

10・20歳代では、「職員給与・定員の適正な管理を行う」が全体より高くなっています。30歳代では、「職員の能力を向上させる」、「事務事業を合理化する」、「職員給与・定員の適正な管理を行う」が、それぞれ全体より高くなっています。50歳代では、「市民との情報共有を推進する」と「施策・事業の評価・点検を行う」が全体より高くなっています。

◆ 市民意識調査と職員意識調査の比較

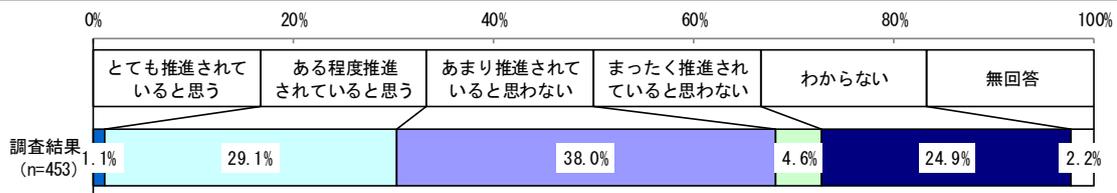


市民意識調査と職員意識調査ともに「事務手続きを簡略化・スピード化する」と「事務事業を合理化する」が上位を占めています。

職員意識調査では、「事務事業を合理化する」が18.1ポイント、「自主財源を確保する」が14.3ポイント、それぞれ市民意識調査より高くなっています。

一方、市民意識調査では、「職員給与・定員の適正な管理を行う」が職員意識調査より10.8ポイント高くなっています。

問 20 市では現在、市民と行政との協働によるまちづくりに取り組んでいます。あなたは、協働によるまちづくりが推進されていると思いますか。(1つに○)



協働によるまちづくりの推進については、「とても推進されていると思う」(1.1%)と「ある程度推進されていると思う」(29.1%)を合わせた『推進されていると思う』は全体の30.2%となっており、「あまり推進されていると思わない」(38.0%)と「まったく推進されていると思わない」(4.6%)を合わせた『推進されていると思わない』は42.6%で、『推進されていると思わない』が上回っています。

◇ 性別・年齢別に見た傾向

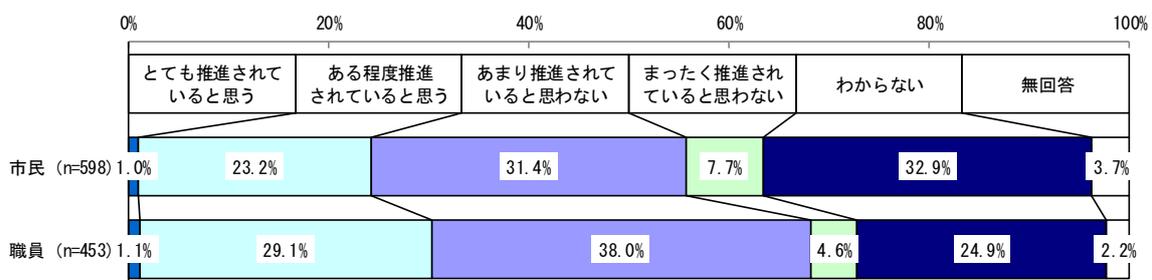
(単位：%)

		回答者数 (n)	『推進されていると思う』	『推進されていると思わない』	わからない・無回答
全体		453	30.2	42.6	27.2
性別	男性	221	27.6	48.9	23.5
	女性	229	32.3	36.7	31.0
年齢	10・20歳代	72	51.4	20.8	27.8
	30歳代	98	20.4	53.1	26.5
	40歳代	140	24.3	52.1	23.6
	50歳代以上	138	31.9	37.7	30.4

男性では、「あまり推進されていると思わない」と「まったく推進されていると思わない」を合わせた『推進されていると思わない』が半数近くになり、全体より高くなっています。

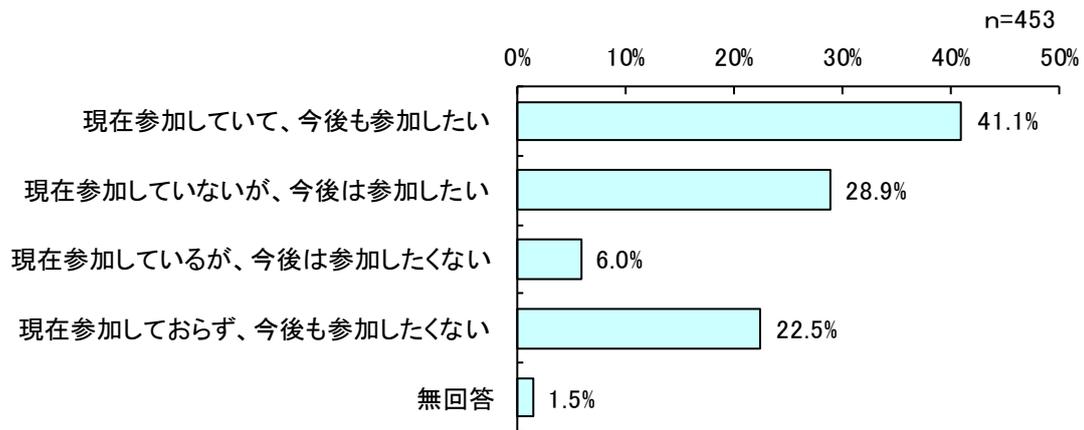
10・20歳代では、『推進されている』が半数を超えて全体より高くなっていますが、30歳代と40歳代では、『推進されていると思わない』が半数を超えて全体より高くなっています。

◆ 市民意識調査と職員意識調査の比較



職員意識調査では、『推進されていると思う』が、市民意識調査より6.0ポイント高くなっています。

問 21 あなたは、お住まいの市や町で市民（町民）として地域活動に参加していますか（したいと思いますか）。（1つに○）



市民（町民）としての地域活動への参加については、「現在参加していて、今後も参加したい」が41.1%で最も高くなっています。

「現在参加していて、今後も参加したい」と、「現在参加しているが、今後は参加したくない」（6.0%）を合わせた『現在参加している』は全体の47.1%となっており、「現在参加していて、今後も参加したい」と、「現在参加していないが、今後は参加したい」（28.9%）を合わせた『今後参加したい』は70.0%となっています。

◇ 性別・年齢別に見た傾向

（単位：％）

		回答者数（n）	『現在参加している』	『今後参加したい』
全体		453	47.0	70.0
性別	男性	221	61.5	69.2
	女性	229	33.6	70.7
年齢	10・20歳代	72	23.6	58.3
	30歳代	98	45.9	66.3
	40歳代	140	50.7	68.6
	50歳代以上	138	58.0	81.9

男性では、『現在参加している』が6割を超えて全体より高くなっています。

50歳代以上では、『現在参加している』が全体より高くなっていますが、10・20歳代は2割台にとどまっています。

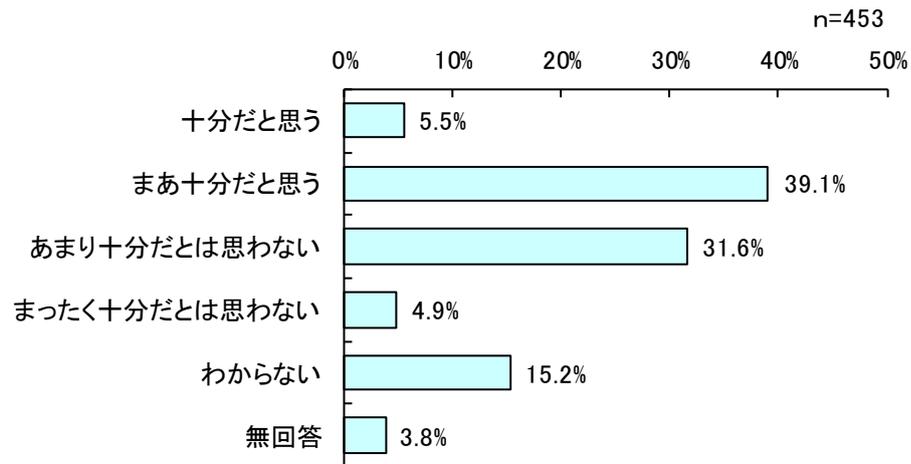
問 21-1 問 21 で「1」・「2」・「3」に回答された方にお聞きします。どのような活動内容ですか。(自由記入)

■ 回答の分類

分 類	件数(件)
地域清掃	77
地域行事	70
地域活動(通学の見守り、交通安全、自主防災、農地や環境の保全等)	31
消防団	28
ごみゼロ運動	26
ボランティア	16
町内会・自治会	15
地域の活動における役員	12
地域のスポーツ活動	7
子ども会	6
子育て支援活動	2
PTA	2
その他	3

問 22 市役所は、市民に対する情報の提供や公開が十分であると思いますか。

(1つに○)



市役所の市民に対する情報の提供や公開については、「十分だと思う」(5.5%)と「まあ十分だと思う」(39.1%)を合わせた『十分だと思う』は全体の44.6%となっており、「あまり十分だとは思わない」(31.6%)と「まったく十分だとは思わない」(4.9%)を合わせた『十分だとは思わない』は36.5%で、『十分だと思う』が上回っています。

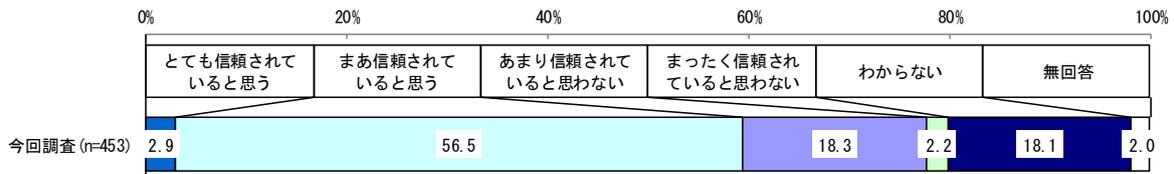
◇ 性別・年齢別に見た傾向

(単位：%)

		回答者数 (n)	『十分だと思う』	『十分だと思わない』	わからない・無回答
全体		453	44.6	36.4	19.0
性別	男性	221	49.8	35.3	14.9
	女性	229	39.3	37.6	23.1
年齢	10・20歳代	72	69.4	16.7	13.9
	30歳代	98	37.8	44.9	17.3
	40歳代	140	40.0	40.0	20.0
	50歳代以上	138	42.0	37.0	21.0

10・20歳代では、『十分だと思う』が7割に近く全体より高くなっていますが、30歳代では、『十分だと思わない』が全体より高くなっています。

問 23 市役所は、市民から信頼されていると思いますか。(1つに○)



「とても信頼されていると思う」(2.9%)と「まあ信頼されていると思う」(56.5%)を合わせた『信頼されていると思う』は全体の59.4%となっており、「あまり信頼されていると思わない」(18.3%)と「まったく信頼されていると思わない」(2.2%)を合わせた『信頼されていると思わない』は20.5%で、『信頼されていると思う』が上回っています。

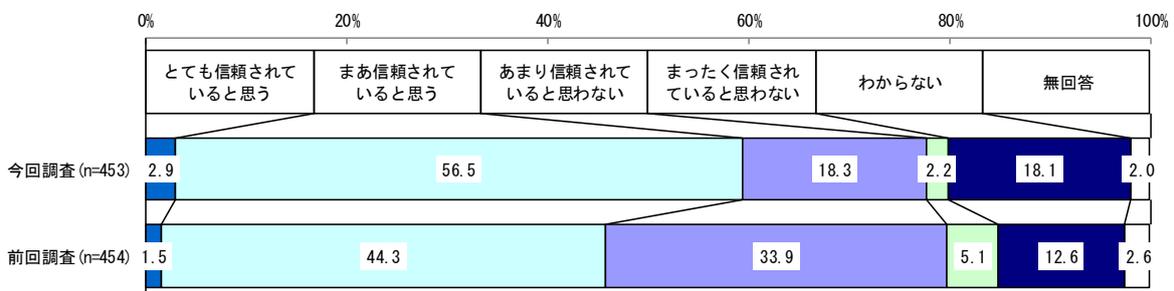
◇ 性別・年齢別に見た傾向

(単位：%)

		回答者数 (n)	『信頼されている と思う』	『信頼されている と思わない』	わからない・ 無回答
全体		453	59.4	20.5	20.1
性別	男性	221	63.3	19.0	17.6
	女性	229	55.5	21.8	22.7
年齢	10・20歳代	72	66.7	18.1	15.3
	30歳代	98	52.0	24.5	23.5
	40歳代	140	56.4	24.3	19.3
	50歳代以上	138	64.5	15.2	20.3

10・20歳代と50歳代以上では、『信頼されていると思う』が全体より高くなっています。

▽ 前回調査との比較



前回調査との比較では、『信頼されていると思う』が13.6ポイント高くなっています。

第3章 その他・自由意見

第3章 その他・自由意見

問4-1 自慢したい内容
自然災害の少なさ。(6件)
飯高檀林跡(飯高寺)。(3件)
気候の穏やかさ。(2件)
病院に在宅部門がある。
保健センターの保健師の仕事について。
子どもの医療費が無料、3人目以降保育費無料。
教育。
保育所入所において利用しやすい、福祉課の対応が親切で優しい。
医療と福祉の関係。
手厚い支援。
植木。
気候が住みよい。成田空港に近い。
ごみの分別の意識が高い。
映画等の撮影のロケ地となったこと。
都市部よりも暮らしやすい気候。
実は結構すごい図書館。

問5 市をイメージするキーワード
祭り(9件)
植木(6件)
温暖(2件)
難読地名(2件)
山、空き家 ・里山 ・いなか ・スギの木 ・学び ・保守的
散歩のまち ・方言(〇〇だっぺ、おらえの〇〇)

問6 活用すべき地域資源
暮らしやすい町を推進するのであれば、医療や福祉・介護等の事業所等資源を効率的かつ魅力あるものとして活用PRすると良い。
担い手のいなくなった田畑、空き家。
植木のまち匝瑳、日本の4つの中の1つである。もっとそこを前面にしたり、後継者の育成をしていくなどを行って行く。
地域住民一人一人が相手を思いやり手助け、助け合いができると良いと思います。
パッと思いつく魅力ある資源が浮かばない事が問題。まずは何の資源があるか、強みは何かを具体的にしないとダメだと思う。
飯高檀林は日本だけでなく世界に誇れる文化財と思います。他所より匝瑳に移りましたが最も感動したものでした。
地域の開業医の先生方が協力して在宅医療にあたってくれていることを活用すべき。
●歴史文化遺産(含祭り)…人々の連帯感に役立つ。●植木産業(職人の技術継承、植樹・育樹)。
●匝瑳高校の人脈を生かす。
●植木 植木をブランド化していく。●匝瑳市という字が読めない人が多い。読めないと興味も湧かない。
映画、CMなどの場所の提供、運営。
空き家空き地の有効利用。
焼却炉の熱を利用し、発電や温水などを作る。
●飯高檀林 ●地域包括ケア(24h対応) ●野菜ふれあい公園
自然災害が少なく、温暖な気候。
高齢者(シルバー人材) 祇園祭グッズ販売、宣伝。

問6 活用すべき地域資源
病院（市民）の活性化，特に高齢者，子どもの医療体制が整い充実する事で，より住みやすい環境ができるのではないのでしょうか。都心から田舎へ移住を考えている方に対しサポートをする事を大々的に行っていかなければわからない（市内の人のほとんどが広報など目にしていないと思われる）。SNSやテレビでの訴えかけを行っていかなければ人口は減っていくと思われる。またいつも同じイベントばかりでなく他にも何かチャレンジする事を恐れてはいけないと思います。
昨今、災害の大規模化が心配されるが、比較的気候にも恵まれ温暖で穏やかであるのが匝瑳市の特色と思う。「植木のまち」「難読」で匝瑳市を知ってもらいたいと思う。あまり都市という感じではなく農村に近いことから生活するのにお金が掛かり過ぎないというのはメリットも大きい。
緑地を生かしたクロスカントリーやトレッキングなどのコースの整備を行う。香取市の小江戸マラソンのような大会を開催し、人が集まれば地域活性化に繋がる。
海、里山。
植木や飯高檀林等を有効に活用するといいと思います。
文化、伝統。
豊かな自然、植木、海。
お祭り、自然、農産物。
植木、農産物。
自然と人と人とのふれあい。
●田んぼや畑・空き家の活用●高齢者の力
農産物のブランド化。
緑豊かな自然、植木。
ゆたかな自然。商店街の活性化。空き家の活用。
それぞれの分野で活躍するスペシャリスト。特産物。
●シャッター通りが増えた商店街を活性化していく。空いている店舗など再利用できるよう進めていく（後継者の育成に力を入れる）。●学校教育では子どもたちが充実して過していきけるような環境を整える（通学路等の工事、各学校に学童教室を設置、エアコン設置など）。●子育てしやすい環境作り（医療の充実…救急夜間医療の充実を図ってほしい）、旭中央まで行くなら市民病院での充実を求めたいです。
●市の伝統行事、文化財をもっと観光の目玉として活用PRしてはどうか。●市民病院～医療環境の充実。市民病院に特色ある診療科（例：子ども医療）の充実をして周辺市町からも頼れる病院を目指してはどうか。
植木、自然。
自然。
まだまだ働ける高齢者。
農作物、歴史的な場所、自然。
植木、映画やドラマ撮影など。
運動施設が少ないと思う。健康づくりに必要だと思う。
現在でも使われていますが、ドラマ・映画などの撮影。
豊かな自然。
やはり飯高檀林。世界へ発信。日本全国へ発信しても魅力的な所だと思います。伝達方法次第で爆発的な人気となりうるだけの歴史と風格ある建造物だと思います。例えば、広告代理店に宣伝してもらおうとか、アニメの舞台にして世界の人々にマンガを読んでもらって広く知ってもらおうとか、戦略が必要です。
●高齢者が多い市なので、元気な高齢者をどんどん外に出していただき、活力となってもらえたらと思う。また子育て世代の親の少し空いている時間を活用し、一人一台車を持っていると思うので、高齢者のタクシー券のように、子どもや高齢者等地域を人で支えることができると思う。色んな人が支え合う匝瑳市独自の制度があってもいいと思う。●あとは夏は祭りがあるが匝瑳市の魅力になるような観光地づくり、ひまわり畑やあじさい等があるのもっといいと思う。おせんのふじまつりに東京から来ていた方が坂の多さと傾斜のきつさに年寄りでは無理だし、バスが少ないと嘆いていました。もう少し観光に来てもらうにしてもインフラ整備をしっかりとった方がいいと思う。

問6 活用すべき地域資源
大浦ごぼうの精進料理、ふるさと納税、高齢者・退職者の知識や知恵は何より財産だと思う。商店街の空き家の持ち主と連携して、貸家スペースとして子育てコミュニティや商業が短期間で行える活動の場にしたいと思う。飯高檀林ももっと宣伝して避暑地になると思う。市内に植木をメインにイルミネーションを作るなど。坂本和菓子とのコラボレーションで県外にも売り出せそう。老舗あんの味、都内の人にも喜ばれます。
自然豊かな緑・海を使い、マリンスポーツの活性化や自然体験など若い人が来てくれるまちづくり。
緑が豊かであり自然にあふれている。植物（いぬまき）が有名で植木の市。
植木のまちをアピール。
植木
海
豊かな自然
海水浴。
●素晴らしい自然。例えば蛍が見える場所がある、里山の自然等。●資源の素晴らしさ。例えば飯高檀林、壮大な植木等
自然
管理放棄されたスギ山
飯高檀林、地域コミュニティ（センター・自治会等）
飯高檀林、ホテル
まちづくりについて真剣に考えている若い世代（20, 30代）
●古民家の再利用。●農業体験等
農地
植木は海外輸出がNHKで特番されるほどの地域として有名である。また飯高檀林は歴史的な遺産として知名度が高く、現在ではドラマのロケ地としてその景観が利用されている。
●成田空港への近さ。●海 ●農業 ●東京に比較的近い田舎であること
飯高檀林等の歴史的建造物
自然
他市ではまねできない匠瑛市の強みを生かした取組が必要だと感じます。匠瑛市の他市との違いといえば、植木産業にあると思います。植木自体を売るだけでなく、匠瑛市を植木に関する技術、文化の集積地としてパッケージで売り出していくような取組が必要だと思います。
植木（槇堀）
災害が少なく、四季を通じて温暖な気候、海と山がある緑豊かな自然だと思う。
九十九里浜の海岸線
自然
海、海岸、人
海、里山等の定住するに当たり需要のある自然環境と、一定程度の住み易さの「バランス」。
飯高檀林は絶景だと思います。多くの方に来てもらって、深呼吸をしてもらえたらと思います。
農産物
海
植木、九十九里浜
植木、里山、飯高檀林
植木銘木、植木伝統樹芸士、飯高檀林、安久山スタジオ、里山風景、八重垣神社祇園祭、ふれあいパーク八日市場など
里山、田園、九十九里浜、植木、飯高寺、ふれあいパーク八日市場など
荒地、空き地、未使用地を太陽光発電で市の財源を確保する。
農地。昔からそれ以外ないはず。商業も祭りも農業や漁業があつて成り立っていたはず。現在の八日市場の衰退が、これら一次産業の衰退と期を同じくしている事からも明らか。現在において、農業振興を図ったところであつてあつたようなまちが復活する可能性はない。物品の流通が昔と今では全く違うものになっているから。それでも資産としての農地はまだ残っている。今のところは。
祭りなどの伝統的行事。飯高寺などの歴史的文化遺産。

問6 活用すべき地域資源
多種多様な伝統文化
植木、飯高寺、地産地消の給食。
海水浴場の開設
●飯高檀林 ●「散歩のまち」として、製靴工場（千葉大塚）と何かしらのタイアップ。
田舎
里山
海岸資源
田園風景と海
自然と人と人の地縁
地元の伝統行事、植木
飯高檀林
海水浴場の復活は難しいですか。地続きの国や県から訪れた人は海がこんな近くにあつてうらやましいと言います。海を活用した何かビーチバレー、ビーチサッカーなどのイベントでも活気づくのではないかと思います。
匝瑳市は山と海を有している。また飯高寺や八重垣神社の祇園祭などで歴史的・文化的などを活用しては、香取市の佐原では小野川を生かした小江戸として栄えているが、相当前から小野川を生かしたプロジェクトをはじめ、今の状況に至ったのだと思うので、住民の皆さんの何とかしようという気持ちが大切なのではないかと思う。
豊かな自然
既存の施設活用（飯高檀林、旧匝瑳小）
豊かな自然
里山や田園、飯高寺など
水田、山林
自然や植木に代表される「緑」
●飯高檀林 ●子育てしやすいまちのPR
自治会等の地域コミュニティ、飯高檀林跡
人
●豊かな自然や緑 ●お米、野菜など美味しい食材 ●温暖な気候（冬は暖かく、夏は涼しい） ●周辺の騒音がなく静かな暮らしができること
教育資源
「人」行政が主導でまちづくりをしていくことも必要だが、市民が参加しなければまちは作れない。
自然、海、田園、蛸、飯高檀林、神社仏閣、祇園祭
植木 匝瑳市の植木は東京駅正面に植樹されており、日本の顔とも言える場所である。また市内には国外を拠点に事業展開している事業者もいる。
高齢者
九十九里海岸、里山、田園
自然、海、田園、飯高檀林、神社仏閣、祇園祭
既にNPOや地域内の団体で活動している人材（リーダー）
●海、自然、豊かな農産物、祭りなどの伝統文化。●千葉市まで1時間。成田空港まで40分と比較的交通の便が良い割には安価で住宅の購入が可能。
豊かな農業や自然環境、東京から遠くないという地理的環境。
閉鎖されている海水浴場
地域のために何かしたいと思っている方々の力を生かす。
自然を利用したキャンプ場を誘致すること。具体的にはキャンプ場を作り、都会から多くの人たちに来てもらう。
都市部にはない豊かな自然と活気・伝統ある夏祭りなど
植木、伝統行事・文化
豊かな自然環境
人材を活用したまちづくり
ひと（人材）

問6 活用すべき地域資源
●匝瑳市らしさとは…何を指すのか。定義付けはされているか。 ●子どもたちが集うまちづくり。歴史と伝統がある地区有数の進学校「匝瑳高校」の存在。教育を核とした新たなまちづくり。 ●農業は大規模な個人経営体が地域の農地を集積し、大規模化していくと考えられる為、スポット的な助成を考える。 ●10年後、20年後の「本町通り商店街」の姿を想像。現在の経営者が70才以上となり後継者があられるか。 ●利用されていない「住居兼店舗」の活用。
成田空港へのアクセスのよさ
植木などの自然豊かさをアピールできるもの
飯高檀林（外国人観光客に向け整備し、広報する）
地域自治の多様性、独自性を生かしたまちづくり
本市は海、緑、地域行事と活用すべき資源は溢れています。海があるのに活用できない、緑が豊富なのに荒れ放題。誇れる大きな祭りも周知不足。絵に描いた企画を機械的に行うのではなく、全てにおいて低すぎる職員の意識レベルを高めるため、職員と市民が一丸となり豊富な文化・伝統・資源を有効に活用すべきである。
農業体験、キャンプ等の体験ができる野山や海などの自然資源。東京からは自分達の想像以上に近い場所に匝瑳市は位置すると思う。近隣市町村を見るとキャンプ場や釣り場は常に賑わっている。一方、このような体験ができる施設は匝瑳市には存在するものの、遅れをとっていると思う。山武市の「有野実苑」や香取市の「The Farm」など（いずれも民営だが）、近隣のキャンプ場は若い人で非常に賑わっているので、参考にできる部分は多くあると思う。
地区でボランティアをしていますが、八重垣神社の祭礼には必ず匝瑳市に帰省しています。若年層のパワーを大事にしてもらいたいと思います。
祇園や飯高檀林をPRし、自然と歴史を学んでもらえるようなイベントを。市全体が活性化されるような催し物を。
指定重要文化財や盆踊り及び祭囃子等の無形文化財(未指定を含む)を活用したまちづくり
海や自然を活用し、市のイメージを上げる
九十九里浜を生かした観光開発。海岸浸食により以前のような海水浴は不可能だが、釣りやサーフィンといったレジャーに対応した観光開発
自然環境、文化遺産
自然
自然や伝統文化の発信
地元産の農産物や、それらを使用した食文化
自然、農業、祭り等、海(海水浴等)も資源と成り得るが、現状では難しいと考える
自然環境と人材
●植木●里山風景●文化財(特に飯高地区)
海・里山などの豊かな自然環境、市街地・里山・海辺などニーズに合った選べる住環境、充実した子育て環境
●自然(田園風景・海・森林資源)が豊かな田舎だということ ●植木という近隣市町村が持っていない個性があること ●成田空港という国内有数の国際空港に比較的近いこと ●駅があること
●植木とその造形技術 ●田園と里山 ●(今後も高齢化が進展することが見込まれ、さらに高齢者人口が高まることから)高齢者が持つポテンシャル
区などの地縁による人の繋がり
植木
散歩のまち
文化財、伝統行事(祭り等)
お祭り
植木、暮らしやすさ
観光資源となりうる国の重要文化財である飯高寺(飯高檀林跡)、海釣りやサーフィンなどを楽しめる雄大な九十九里浜や八重垣神社祇園祭など
●田園風景。田にたたずむシラサギ、アオサギは美しいです。以前は蛸もいましたが…。 ●図書館。図書館を中心にまちづくりをしているまちもあるようです。でも今の図書館の体制ではできないと思います。

問6 活用すべき地域資源
植木産業、農業、暮らしやすい土地
活用できる地域資源があるのか、地域資源とは何なのかを議論すべきと考える。
豊かな自然と温暖な気候
第一次産業が盛んだった頃があったと思うが、現在は停滞しており、今後の復活、発展は困難なように見受けられる。まちづくりに活用すべき目立った資源が乏しいことは否めない。例えば、遊休地を利用した太陽光発電を行政の後押し等で推進することや、国策に適った施設等の誘致はできないものか。
里山
水田等の農用地
オリンピック開催海岸(九十九里浜)の一部なので、サーフィンや釣り、打上げ花火等のイベントを行う。
全て
●植木…本市の代表的な地域資源で千葉県地域資源も登録済。ふるさと名物応援宣言もしているので、事業者も積極的に新商品・新サービスの開発に取り組んでほしい。現状本市では唯一海外で勝負できる地域資源である。また、市としてもプロモーションや支援を強化すべきである。
●祭り…八重垣神社祇園祭などの伝統的な祭りは経路依存性から他の市町村では簡単に模倣できないイベントである。インバウンドに乏しい本市でも戦略を構築することで、外国人観光客誘致などに繋がる可能性がある。
●その他…方言、難読漢字、飯高檀林など
海(海水浴場)
農作物、畜産物、水産物
植木、里山
●農業…なんでも栽培できる気候で、米、野菜、畜産、植木など幅広い取組がある。常に、体験事業や地元産農産物を感じる取組で、まちづくりを進めてはどうか。
●散歩のまちPR…散歩＝健康づくり。狭いながらも住宅周りの市道に歩きやすい歩道の整備と、身近な公園・広場へ、健康づくり器具を設置するなど、文化的な面の紹介は外来者が中心で、健康づくりは市民の日常行動へ響くはず

問7 まちづくりに関して今後力を入れる項目
ボランティア活動への取組。
発達支援への流れ。
他の市町村が行わない事業。
多古町のように空港へのシャトルバスの運行。
交通網でなく交通手段のサービス。各課のタクシー券の配布枚数や料金アップ。
総合的な土地利用計画とその計画に即した道路・公共施設の整備。
外貨獲得、増税による歳入増。事業廃止による歳出減。
散歩のまちに力を入れる。
雇用の創出。

問8 市の高齢者や障がい者への重要な施策
在宅医療の充実。
もちろん介護保険や福祉サービスで支える事は行い、それでも現在支えきれない現状が見えている。
病院 入院できる病院作り→老朽化、建替え。
安心な医療の提供。
高齢者の良い知恵、マナーなどが生かせる場の提供(若者へ何を伝えるか)。
医療
人材・人員の確保。
介護士の育成。
働く場の確保。

問8 市の高齢者や障がい者への重要な施策
外出支援サービス。
全ての人材の社会参画による生きがいの創生。
医療費等制度から外れる人を救済できる経済施策。
デマンド交通。
生きがいを感じてもらえる体制づくり。
サービスではなく、外に出させること。

問9 市の子育て支援への重要な取組
医療的ケア児への支援の充実。
保育士の働きやすい環境作りが一番。
学校にエアコンを、暑い！
小児科の充実化（24時間対応してくれる場所）。
発達支援や保護者支援のスムーズな支援。
横の繋がりや上下の繋がり、情報がほしい。ちょっとした事を気軽に相談できる窓口がほしい。
各保育所に看護師を雇用する。
保育士の確保、給料の見直し。
保育士の人材確保。
屋内外で子どもたちが安心して遊べる場所を充実させる。
地域型総合的スポーツクラブの充実。
産婦人科・小児科医療の充実。
親の責任放棄ではなく、誰でも活用できる児童館の設立整備。
先進的な目玉施策。
虐待・ネグレクト等の早期発見、対策。

問10 市の医療環境への重要な取組
市民病院に小児科がほしい。
健康診断を各集落コミュニティセンターでしてほしい。
健診センターなどの予防医療。
市民病院で白内障の手術が受けられるようになると思います。白内障の手術は近隣で半年待ちと言われていています。白内障の手術は入院だとしても短期であり、病院の経営的にも貢献できるのではないかと考えます。
小児科及び児童精神科、発達センター等の充実をお願いしたい。
将来的に考えて市民病院を維持する事が本当に必要か。
旭中央病院と統合し、通院やリハビリや小児の予防接種外来のみとする。
旭中央病院への吸収合併。
健診機能の強化。
送迎バス等利便性向上。
病気になるための意識の醸成（食生活、運動等）。
旭中央病院の傘下に入る。
総合医等の活用によるほかにあまり例を見ない地域医療の充実。
患者数に対して、スタッフが多すぎると思います。

問11 市の農林水産業振興への重要な取組
道路交通網の整備。
工業地に大手企業を迎える。
販売のターゲットをしぼる事でブランド力が高まる。匝瑳の舞は農家が少ない。玄米愛好家へアピールできるなど。
環境を利用した事業を行う。
農林水産業の工業化（ブランド化）。

問 12 市の商工振興への重要な取組
道路交通網の整備。
商店街が利用しやすいように道を広く、駐車場を確保し、商店街に行けば必要なものがそろえるようにするといふ。アーケードを作るとか。
他市のように新しいお店（チェーン店等）を迎える、匠瑛市は昔からのお店しかない。外食するにも他の市へ行く。だから人も利益もない。
病院に行った時に買物もできるなど効率を考える売り場。
安定した収入が得られるルートづくりなどの経営改善も必要。
消費者ニーズの把握し直し。
農林水産業の工業化（ブランド化）。
利便性の高い名のある大規模商業拠点への進出。
地元商店街の目玉商品等の販売PR。
企業立地場所の確保。

問 13 市の観光振興への重要な取組
観光資源が少ない中で無理に施策を進める必要はない。
山を生かしアスレチックなどを作り（大人・子ども）が利用できる。その後焼却炉の熱で作ったプールやスパで汗を流す。
道の駅など。あまり多くのお金はかけない方がいいと思うところもある。
知られないと来てもらえない。SNSで紹介されるような見た目の綺麗な何かが必要ではないか。（特に若い人は）食べ物、スポット、デートコースになるものなど。魅力があれば活性化され若い人も来てくれるのではないか。商店街にもそれらの講習会をしてみてもは。
多田屋周辺伝統的建築郡による街並み創生。
看板、トイレの整備。
歩道の整備。
広域的な観光振興施策。
外国人観光客向けの施設整備、広報活動。
情報発信。
市の観光資源は何なのか、何に取り組むべきか。

問 14 市の安全なまちづくりへの重要な取組
どういう時にどうなってどこに避難するのか教育する。
防風林の植樹区域の拡充。
道路整備。
行政も被災する側に回る可能性があるため、近隣自治体と連携を図る取組を推進する（基金制度の創設等）。
津波・土砂災害で利用する避難シェルター整備。
市が地域とともに活動できる体制整備。
自主防災組織への柔軟な助成。

問 15 市の自然環境保全への重要な取組
子どもたちへの教育。
子どもの頃からの教育
迅速な行政処分の執行等。
荒れ放題の自然を官民共同で整備する。
太陽光発電による自然破壊。

問 16 市の小・中学校運営への重要な取組
通学路や通学手段に安全配慮を。
学校暑い。エアコン入れて。

問 16 市の小・中学校運営への重要な取組
学校の先生にこれ以上の負担をかけず、教育に専念できるようにしていく。学習の楽しさを教えられるようにしてほしい。
今の子どもたちは昔と違って大人数慣れしていない。正直 36 名 1 クラスでは多すぎて目が届いていない。30 名以上は 2 クラスにするなど検討してほしい。
学校の部活動で専門に指導できる人がいれば積極的にコーチとして雇う。
特別支援教育強化。
小中学校の全市的統合は喫緊の課題であり、早急に推進する。
周囲の大人の品位を高める。
いじめ防止対策強化。
地元愛の醸成から将来的に U ターン、I ターンに繋げる教育。

問 17 市の生涯学習・スポーツ・文化活動への重要な取組
ドームの利用でトレーナー管理があるトレーニングジムがあるといい。
旭市のように講演やコンサートなどの企画。
スポーツも道具の使い方などの指導者がいない。また建物だけ。健康増進のための機材もない。気軽にできるものがない。中身の充実を。
以前市のマラソン大会を見に行った時に他の市町村の人がこの大会は応援が少ないし、さみしい、と言っていました。盛り上げる力も大切だと思います。
他市のように生涯学習の一環としてプロのミュージシャンを呼ぶ等の機会を設ける。
コミュニケーション不足を補えるような取組が必要。
市が関わらなくても長期的に活動できること。
図書館の活用(今の体制ではできませんが)。

問 18 市の人権問題への重要な取組
市民全体の意識向上。

問 19 市の行財政改革への重要な取組
各課の連携が図れていない。お互いの情報共有が必要かも。
市の人口に対して議員の数が多と思う。人口に合った人数、給与体制が必要だと思う。
専門技術職員不足の解消。
会議等の時間短縮、削減。
ばら撒きに近い補助金や助成金は見直す。
産業・観光・IT それぞれに特化した特別職を用意する。
事業の取捨選択、団体補助金の見直し。
コンビニに証明書類の自動交付機を設置する。
組織改革をし、規模を縮小させる。余分な職員配置を削減する。

問 21 地域活動への参加内容
区長、小学校 P T A 役員、子ども会役員、交通安全協会
週一回のヨガ教室 (などのスポーツ教室)
ごみゼロ運動、災害訓練、スポーツ・レクリエーションなど
●ナースのお仕事の説明、ナースのアロママッサージ。●保育園などに行き、病院のアピール (耳鼻科、眼科、皮膚科があることを知らない)。●病院
●組内の集まりや掃除への参加。●学校活動へのボランティア
市をアピールしたマラソン
必要性が明確な活動ならやってみたいと思う。
ボランティア活動など
子ども会活動 役員をしています
消防団活動、元青少年相談員、元農家組合長

問 21 地域活動への参加内容
他地域との交流など
区の集まり。側溝清掃、お祭りや行事の参加。
用水路の草刈、花植え、コミュニティの清掃
コミュニティセンター、ゴミ収集場の掃除
地区の役員としての参加のため、積極的なものではない。市職員、地区代表の責務としての参加。
観光ボランティア、放課後子どもボランティア
今は仕事と生活でいっぱい。退職後は自分の持っている資格を生かしたボランティアなど。
自治会の地区連絡員（今年度）。数年毎に消防団員を実家の地区で担っているが、できる人がおらず抜けられないのが現状の課題となっている。今後PTA活動が予定されている。
マラソン大会があれば参加してみたい。
お祭り（八重垣、産業、盆踊り）、カラース等イベント
祭り、草刈など
子育て支援や障害児支援など
ボランティア、学校活動への支援
ボランティア等。参加してみたいと思えるような活動を考えてほしい。
ごみゼロ運動
ボランティアや地域の清掃活動や地域活性化のイベント参加等
子育て支援にかかわる活動
スポーツ振興の一環として5市大会にでる
町内会
祭り、イベント、地域活動
ごみゼロ運動、子ども会など
周辺環境の美化活動などに参加したい
市が主催する祭り行事には積極的に参加しています。また他市町村の友達や知人などにも声をかけて参加してもらったりしています。子育てをしているので学校行事（市主催）も含めこれからも参加して盛り上げていきたいと思えます。
●地域のお祭りには積極的に参加している。●公民館祭りへの参加。●今後は安全な街づくりのためにできることがあれば活動に参加したいと思います。（地域の美化活動など）
自主防災会への参加
地域ボランティア（区長、神社総代等）
地域の行事やごみゼロ等のボランティアへの参加
清掃活動
ボランティア活動
ごみゼロ、除草作業
保健推進員活動、ごみゼロ年1回
祭事
ボランティア
地域ボランティア（医療・介護関係）
まずはごみゼロから始めたい
ゴミ拾い、イベント
地域のゴミ拾い
ゴミ拾い
ゴミ拾い
祭礼
清掃活動、祭り
自治会活動
清掃、祭りや納涼会の参加
町内で行っている環境美化活動
現在仕事・子育てをしている中で難しいが、時間に余裕ができれば考えたい

問 21 地域活動への参加内容
地区の祭りの手伝い、地区行事へ子どもと一緒に参加する。ごみゼロ活動。
救急救命講習会の実技講習のサポート
町内の清掃
幼少期よりスポーツに携わり、現在も続けているので、地域の小中学生の指導などに活用でき、地域スポーツの向上に少しでも参加できたらと思っている。
地域の祭りやボランティア事業
地域の廃品回収や神社の行事
集落の草刈、ゴミ拾い等の奉仕作業に必ず参加する。地域のごみゼロ運動に必ず参加する。学校のPTA、交通安全協会ほか地域の役員として活動に参加する。
ごみゼロ運動
地区ごみ掃除
美化活動など
地区の祭り
ごみゼロ運動
栗山川の清掃
退職後に参加したいと思っています。
ごみゼロ運動や地区の行事への参加
イベントへの参加
地区レベルの開催行事に参加・協力（お手伝い）
子ども会活動
ごみゼロ運動、PTA活動
農業関係（土地改良区）、区長会関係、お寺神社関係
清掃活動・子どもの見守り活動
清掃活動
消防団活動。地元地区の役員としての活動。町会の清掃活動。
地域の清掃活動
消防団
定期清掃活動、囃子保存会活動、地域各種行事
今年度は町内会長として地区の会議を運営したり、祭礼の準備及び運営、地域の清掃活動など積極的に地域に密着して取り組んでいる。
輪番制で地区の役員を受けている
ごみゼロ運動、神社の除草作業
通学時の見守り等
美化清掃やお祭り等
地域の防犯指導員として、多面的機能交付金事業の役員として地域活動に携わっている。
地区行事、防犯活動等
地区の祭りなど
地区行事全般に参加
高齢者の健康づくり等の地区活動
水路の草刈等
ごみゼロ運動や祇園祭に参加しています。
消防団
町内会で実施する活動への参加
祭事などの地区行事、定期的な奉仕作業
ごみゼロ運動
ごみゼロ運動
除草作業、用水管理等
主に通学路の除草や清掃作業となるが、各種役員が回ってくるので関連行事等に参加することになる。
地区の行事（年4回程度）、草刈等（年2回）

問 21 地域活動への参加内容
農地、水環境保全事業
スポーツ活動
消防団、防犯、交通安全など
ごみゼロ運動
ごみゼロ運動
消防団活動
地区のイベント運営等
地区の毎月の溝清掃。地区の当番制の役員。
ゴミ拾い
コミュニティの清掃など
自治会、囃子連など
地域のゴミ拾い
現在仕事と日々の生活でいっぱいです。退職後は余裕ができればボランティアに参加したいと考えています。
自治会の役員等
奉仕作業
草刈りやごみゼロ運動
ごみゼロ運動など
環境美化活動
消防団員として地域における有事の際の消防補助活動。
清掃活動等
地元行事への参加（神社行事など）
区会、地区清掃への参加
祭事。年齢的にきつくなってきた。
自身としては参加したいという希望はあるが、そもそも地域で同様な活動が実施されているのかなどの情報の収集不足もあり、地域活動自体の現状を把握していない状況である。また参画してみたい活動分野も今のところ特にない。
地元のお囃子保存会に属し、イベント等に参加し、演奏している。
ごみゼロ運動
消防団。地区の祭り役員として、お囃子での参加。
子ども会。地域の清掃活動。
消防団員。青少年相談員。
交通安全協会
消防団・安全協会
地域清掃
ゴミ拾い
祭り
町内会、消防団への参加
道路側溝清掃
環境美化活動（ゴミ拾い等）
地域集落の会合（新年会、祭り等）に参加している。
区が行う行事、地域の清掃活動、各種団体等の役員
環境美化活動
囃子連
集落活動
消防団
地域での清掃活動
地区行事参加、地区役員
ゴミ拾い、水路の草刈り、水路さらい
ビーチクリーンや清掃

問 21 地域活動への参加内容
ごみゼロ運動
地区の共同作業に参加し、お祭りにも積極的に参加している。地区の任意組織にも参加し、行事にも積極的に参加している。
地域清掃活動
地区の防犯活動
祇園祭、チューリップ祭への参加、支援・寄付
行政との連絡、防犯対策、交通安全対策、排水路維持管理、消防、神社・寺行事、地域振興協議会など
各種地域活動（ごみゼロ運動など）への参加
地元の行事活動（草刈り、お祭り、水路掃除）
清掃活動、祭り、自治会活動
自治会活動全般、地域振興協議会の活動を通じた活力ある地域づくり
毎年:地区行事（祭礼）への協力 過去:町内会役員（任期1年）、消防団員としての活動
消防団活動
地元の青年会に属し、祭りの準備等を行っている。
地区行事の準備・運営
町内会 市民という意識より、町会という枠の中で参加している。町会から消防団員や交通安全協会、連絡員等を交代で出していたが、若い世代が参加せず、町内会の参加も昔から男性のみで、町内会への参加者は少なくなっている。参加はしたくないが、地元にいるのでしかたなく参加している。
環境整備、伝統行事
地元消防団活動や伝統行事への参加
消防団活動、地域内の草刈りなど
子どもたちの通学時の見守り活動などの防犯活動
具体的には決まっていない
地域からの案内もないため、どんな活動があるかわからない。
子ども会を通じて地域の方と関わっています。
地域の環境を守る手助けがあれば参加したい。
高齢者へのボランティア（話し相手、演芸行事等の手伝い）
地区の行事の運営、役員としての職務等
高齢者へのボランティア
地域のコミュニティ、祭礼を通じた活動。地域に住んでいる者としては「参加が義務」「参加しなければならないもの」といった意識があるのも事実。
ごみゼロ運動、地域の除草作業、地域の用水路清掃
自治会主催の環境美化活動やイベントの運営など
地区行事（会合や祭りへの参加等）、消防団
高齢者施設や幼児等に対するボランティア活動
地域の活動内容については把握していません。
水路の草刈り、溝さらい
草刈りや祭典などの地域行事への参加
地域の清掃活動
環境美化（草刈り・伐採）。農業施設共同管理（水路・道路維持作業）。スポーツ少年団。
自主防災会、神社祭礼、その他
地域による除草行事
地域の祭事に参加している
地域の子どもたちにお囃子を教えています。
部落で行われる祭りや字で行う祭り、イベント等に参加しているが、今後も身近で参加できるイベント等があれば参加していきたい。
地元町内会行事や祭礼等に参加している
ゴミ拾い活動や地元自治会活動など
地区での美化活動

問 21 地域活動への参加内容
会館清掃など
市民を楽しませるショーの出演。飯高檀林コンサート(秋)実行委員
八重垣神社祇園祭関連活動。消防団活動
消防団
集落内の行事、共同作業
町内会や消防団の活動に参加する
消防団活動、自治会の青年会
地域の清掃活動など
地元活動での役割(消防団や青少年相談員、PTA活動・お囃子等)を果たすことはもとより、地域のスポーツチームの一員として仲間とともに汗を流しながら、市民と同じ目線で匝瑳市をみるようにしています。
消防団活動
地域振興協議会の活動
居住地区における清掃活動
千葉県無形文化財に指定された祭の舞踏継承係(小学生への舞踏指導・監督)
居住地区の祭や消防団活動等。居住地区外から声がかかることがあるが、参加する根拠がないため断っている。
青年会組織、自主防災会等
区の行事への参加(勤労奉仕作業、祭事等)
消防団活動、祭礼
地域の清掃活動
町内会の組長を定期的に(順番で)担当することになっている。(家族が請け負うが、当人はその補助的作業)
地区の世話人として会合等に出席した時に行政に対する相談事がある場合には、市とのパイプ役となり対応できるものは適切に対応している
水路清掃。腰を痛めているので今後は遠慮したい
共興地区を守る会の一員として活動している
地区の祭りなど
地区活動、消防団活動、民族芸能活動
地域の祭りへの参加、清掃活動など
ゴミゼロ運動など
自治会活動への参加(清掃、会合、意見具申)
ごみステーション設置
区、お寺、神社、ほか各種行事
草刈り、ゴミ拾い
どのような地域活動が行われているか情報が無い。活動に従事する時間がない。肩ひじ張らない「気軽な」活動
草刈、川堀、ゴミゼロ運動
環境保全会(農地)、区会の運営や祭りへの参加
町内会活動

問 24 市の発展に向けて取り組むべきこと
市民の役に立つ所の名の通り、言動・行動・地域行事への参加等、一つ一つにおいて職員が意識を高めて行っていくべき。
雇用場所の創出。
子どもの貧困は全国で言われているが当市でも…。空き店舗などを活用し、高齢者の憩いの場を作り、子どもと老人が気軽に交流できる場、そこに子ども食堂を併設しては…。市職員だけではできないことではないので、市民と協働してやらないと長続きはしない。初心に帰って、市職員は市民の奉仕者であることを再確認すべき。市民のためになることを考え、市が良い方向に発展するような取り組みをお願いしたい。

問 24 市の発展に向けて取り組むべきこと
先進市等の取組を積極的に取り入れて、若い人を呼び込む努力をすべきだと思う。現在の20代、30代は価値観が大きく変わっており、モノの購買には消費をしない一方で、自分の価値を高めたり、自分の価値観を変えようという体験に対しては対価を支払う。これは、現在のキャンプや登山などのブームでも明らかだと思う。キャンプ場に関してもAC電源やシャワー完備の高機能サイトの設備がなくても、野山の中でブッシュクラフトを行いたい、直火でたき火をしたいなどのニーズは確実にある。まずは、都市圏住民が具体的にどのようなニーズがあるのかを調査し、そのニーズのうち何を当市の持つ資源の活用により満たすことができるかを検討するマーケティングが必要なのではないか。
専門職なので、健康管理や各年齢層にあった食育に取り組みたいです。少しずつ進みたいです。
市職員の市内へ定住化促進対策。
地域の活動の支援や相談等に応じてくれる体制づくり。
人口減少対策が重要、そのためには子育て支援・就労対策・産業の振興などに取り組み、人口の流出を防ぎ、定住を図る必要がある。
市民の方との信頼関係の構築、相談しやすい関係づくり。
無駄を省く。
市民と顔を合わせて、話しやすい関係を築くこと。この人には話しやすい・話せば何とかしてくれるという信頼関係の構築。
市民の目を忘れずに、日々の生活に取り組んでいきたい。「市民の見られている」「市民として見ている」を意識する。
既存事業の改善・充実を図っていくこと。市民協働の推進。
地域資源の掘り出しと活用。市内の区割り(旧八日市場・旧野栄)を越えて匝瑳市民としての意識の醸成。
丁寧な対応(窓口・電話)と問い合わせに対する明快な回答。
可能な範囲で企業誘致等を行い、雇用の場を確保する。
市外・県外の職員も増えてきているので、一度匝瑳市について(観光資源や文化など)知る機会が必要だと思う。
市民や市外の来訪者からのニーズに応えていく。
匝瑳市のような環境を求めている人に対して、いかに情報を届けるか。若い人が生活するためには、働く場所が必ず必要です。千葉県は行き止まりの地形から大手企業が進出しにくい場所であると考えますが、東京に近く、温暖な気候、大きな災害の無いこの地域は、企業にとってメリットはあると考えます。また、ライバル企業がないこの地域の人材は、他県に比べ優秀な人材を十分確保できるのではないのでしょうか。土地を提供してでも、企業(働き場)の誘致は、匝瑳市の将来を明るくできるものであると考えます。自身が職員として、市民のために何をすべきか。何ができるか。常により良い仕事ができるよう考えながら、職務に当たるよう心掛けています。
人口流出防止策の検討。
市の魅力・情報などを対市民だけでなく、対外的にプロモーションしていくこと
持続可能な行政運営に向けての取り組み。人口減少、高齢化、生産年齢人口の減少を回避することは難しい。限られた財源と労働力を活用し、市の魅力を増進させるためには、選択と集中が必要であり、住民と正面から向き合い、痛みを共有する勇気が必要だと思われる。
「水清ければ魚棲まず」とも言うので、あまりにも他に厳しく、規範意識などが高すぎると、かえって市の発展を阻害する要因にもなってしまうものと考えられる。適度な規範意識は持ちつつも、型にはめず些細なことにとらわれない柔軟で自由な物の考え方や意識ができるようにしていくことが、結果として職員のモチベーションを高め、ひいては市の発展に寄与するものと思われる。
タスクの整理が不十分なために必要以上の時間外勤務に追われている方の話を聞く機会が複数あったため、段取りに関する研修を強化し業務効率化を図ることが挙げられると思う。
より良い人材の確保及び人材の教育・育成。
発案力。
地方公務員としての基本的能力と各課の担当職員としての個別能力を正確に身につけて生かすこと。

問 24 市の発展に向けて取り組むべきこと
人口減少に歯止めをかける施策は推進しつつ、人口減少を適正に見込んで、次世代に過大なコスト負担を強いることのないように、既存の施設・設備については、柔軟な発想で転用等を推進し、将来を見据えたまちづくりを行う。また、超高齢化社会を迎えるに当たり、自宅で医療・介護サービスが受けられる在宅医療を推進し、地域包括ケアシステムを実現するとともに、地域住民の「共助」を生み出していくことが重要な課題となる。
市民の目線に立って、市民が望んでいる行政サービスを心がける
市民が市に対してどのような要望を持っているかくみあげる。若いファミリー層が市内に定着するよう、都心へ直通で乗り入れできる通勤の足が確保できるように働きかける
職員は、行政マンとしての自覚を持ちながら、市民目線で考えることができる意識の向上など。
市職員一人ひとりの意識として、市民のために現状の最大限で何ができるのか考えることが重要である。厳しい財政状況の中で、限られた財源を基に“お役所しごと”にならないような取組が必要であると考えます。
結婚・子育て支援、教育、地域振興に力を入れ、持続可能な発展を目指す。そのために研修や市民協働を活用して、より匠瑤市に適した企画を考えたい。
机上ではなく、現場に出向くような体制づくりや、地域での生活の中で市民として、ともに活動すること。
市として、今後も病院経営を継続していくのであれば、現在の老朽化の進行状況から見て病院建設について、早急な検討が必要である。現在、経営健全化を優先することで病院の建設が保留となっているが、市民病院の開設者が市長である以上、病院経営健全化のための財源は、病院だけではなく市全体で確保していく必要があると思う。
住民間の連携を密にしていくこと。
持続可能な行財政運営を見据えて、スクラップアンドビルドをさらに突き詰めることが肝要と考えます。具体的には、施設の維持管理や補助金交付など、見直す事柄はまだあると思います。さらには、将来の広域合併に備えるため、他市の職員との交流や意見交換などを図っていく必要があるのではないのでしょうか。
熱中症対策。
禁煙すること。
今後の世代がつけを払うことのないような政策を行いつつ、今の市民の満足度(幸福度)をあげる政策を展開していくこと。
専門性の高い分野における職員育成・専門分野を生かした人事異動。
人口の減少・流出による利便性及び魅力の低下への対策。
現在の行政は、多様で専門的な住民ニーズに対し、限られたリソース（人手・ノウハウ・予算・時間）を最大限に活用し、確効率な対応を実現するかが求められている。そのためには、良・質ともに高度化する業務を担う人材の育成、とりわけ技術的・専門的な業務についてはプロフェッショナルの育成確保が必要である。
革新的な人事施策…多様化する住民ニーズや行政課題を解決していくには、優秀な人材の採用や育成が最重要だと考える。例：民間企業への職員派遣や外部人材の登用によるノウハウ習得、ON-JT・OFF-JTの強化、自己啓発の推進など。
職員（特に若手）の仕事への意識づけ 就職がゴールで、仕事に対する志を持たない職員が若手に多いと思う。インターナルマーケティングを強化し、動機づけを行う必要がある。
プロモーションの強化…対外的なプロモーション施策が弱い。観光、移住、定住、企業誘致など総合的に情報発信を行う必要がある。例：パブリシティ（プレスリリース）をもっと積極的に行い、コストをかけずにプロモーションを行う、プロモーションの専門部署の設置など。
民間企業との連携強化…大企業や中堅企業の中にはCSRの観点から自治体との連携により地域の課題解決に協力したいと考えている企業も多くある（もちろん金銭は発生するが）。それらの企業と連携しノウハウや資源を活用していくことが効率的な行政運営や市の発展に繋がると思う。例：楽天（ヤフー）との包括協定によるIT教育・EC販売の強化、人材紹介会社との連携による雇用マッチング強化など。
市としての積極的な投資…財政難で初期投資を抑える傾向を強く感じるが、投資しなければ利潤（地域への経済波及効果）を得る事はできない。投資利益率などを分析した上で先進性や実現性、持続性の高い事業には積極的な投資を行い、将来の市の発展に繋げていく必要があると思う。

問 24 市の発展に向けて取り組むべきこと
市民への情報の提供、共有を徹底すること。
雇用対策・定住促進・子育て支援。
業務の効率化及び職員相互の連携体制の整備。
人口減少が確実な時勢の中、市職員のみならず、市民一人ひとりが問題意識を持ち、自分にできることをやっていく。職員も、所属や担当にとらわれず、市のためになることを「職員の仕事」として取り組んでいく。
意識を変えることではないでしょうか。誰かがやるだろうではなく、些細なことでも自分で動いてみる。そして失敗してもそれを受け止め、成功に繋げていける「市」であってほしいと思います。
業務のスリム化（様々なツールの有効活用）。必要に応じてIT化の強化→紙書類の削減。
もっと若い方々に来ていただけるようなまちづくり。
商業施設が不足している。人が集まる場所を作る。市民病院の建て直し。若い人もかかりつけになってくれるような病院にしていきたい。きれいでないと集まらない。
斬新な発想を出し、特色のあるイベントを考え実践。植木のまち(造園で何か)ディズニールランドのこの木はA造園から届いているなどたくさんあります。祭り、海のイベント。釣りは？飯高檀林…ドラマにもよく使われていることをアピール、宣伝してほしい。
地域連携の充実。
一人ひとりが市民のために何ができるか考え取り組むこと。病院のために何ができるか考え行動。縦割りではなく、同じ仕事場なので横の繋がりがとても大切だと思います。市民がどうしたいのか支えることが大切だと思います。
老朽化した病院の建設。
匠瑤市民病院の建て替え。
建設的な話し合いのもと進められる取り組みであってほしいです。
今がよければ良いではなく、10年20年先のことを考えてほしい。病院さえ維持できない市でどうして子どもを育てようと思うか。
今後の方向性などを明確にしていくことが必要だと思います。目標数値など。
市の取組の方向性が分からないので、優先順位をつけて行うべき。何にでも手を出すのはやめましょう。人口を増やしたいならば、住みやすいまちづくりを目指しましょう。そのためにも、道路・交通網の拡充や整備、市民病院の建て替え整備は重要だと思います。資源がない市に観光とか不毛です。あてもないのに客メインの取組を実施するのはやめてほしい。市民が恒久的かつ誰でも利用できるようなもの(環境・道路・病院など)を優先的にしてほしい。
産業活性化のための提案を行う。議論していく場をつくる。
医師を獲得し、病院を建て替え、新しい人が来院するような環境づくり。→病院の場所も他市の人は知らない人も多い。病院医事課は適正人数なのか検討が必要。
匠瑤市としての市の良いところ、アピールしたいところが分からない。また、どういう市民を確保したいのか、どういう市にしたいのか、何かを新しくするのではなく、今、市で力を入れていることをどんどん伸ばしていくと良いと思います。
市民病院の建て替えを考えてほしい。入院患者は50~60人いますが、室温調整もできず、老朽化で対応できていません。ぜひ前向きに検討してください。
他にない手厚い子育て支援など若い人たちが進んで匠瑤市に移住してくれるような働きかけをされるといいと思う。現在でも医療費無料や第三子から保育料無料など自慢できることもあるので他市にアピールすると良いと思う。ランドセル無料配布とか学童無料化、学童・保育所の無料送迎など。
行財政基盤にあった施策、地域状況を踏まえた人員配置。誠実な業務遂行。
自分は医療関係者なので、医療・福祉の充実を願うところですが、同じ思いがあまり広がっていないように思います。(病院移転の話を早期再開してほしいのですが)
市民病院の建て替えを再検討してほしい。
市民病院の建て替えにもっと力を入れてほしい。手術・在宅医療・慢性疾患、何をとっても市民病院は市民にとって必要だと思う。建て替えればもっと人材確保もできると思うし、患者も来ると思う。市民病院の必要性をもっと真剣に考えるべきだと思う。
子育て支援と高齢者対策に力を入れ、住みやすいまちづくり。

問 24 市の発展に向けて取り組むべきこと
市役所に入ると全員が机に向かっているけど、何をしているのか。あんなに多く人材は必要ないのかなと思う。
病院(市民病院)の建て直し。経営改善したらとのことだが、それは市民病院の役割を理解していない。市民病院だからこそ、利益にならない他では断られた行き場のない患者を受け入れたり、地域医療に力を入れている。実際なくなったら困るのは市民だと思う。今の耐震ではない、雨漏りもする、空調もいまいち、個室も少ない病院に市民は入院したいですか。ほとんど議員や市の職員も他の病院へかかっているのはなぜでしょうか。
学校にエアコンを入れてもらいたい。
市の発展とは何か？人口増か？心の豊かさか？市民は何を望んでいるのか。今与えられている職務を誠心誠意丁寧に取り組むこと。一職員が市のためにできることはその程度、その結果、市の発展とやりに繋がればよし。
少子化対策。移住者の促進(体験から始まって移住者が定着するまでのサポート等)。
成田市が近いので、空港関係の企業の誘致と成田空港から匝瑳市内の駅までのバス路線、新興住宅地の整備・開発、転入(他の市町村から)者は年々市町村税が低くなるようにして長く住むとお得な市にする。
市の活性化、商店街の再生、イベント(まちのPR)。
市民へ説明などを行う時は単調で分かりやすく誰もが興味を持って理解できる環境づくりが必要と思われます。今、市で配布している広報を誰がどの程度読んでいるのかなど把握すべきであると思います。また、他の方法で市民へ何かを伝えるには大々的に行われないと伝わりが浅いと思いました。小学生～高齢者の方が読んでわかる内容でないといけないと思います。
掲示物だけではなく、防災無線をもっと利用して、情報提供をし、今、何が起きているのか、市民はどう意識すればよいか共有することも大切ではないかと考えます。
常勤と非常勤職員の給与費の格差が深刻で人材の確保が今後の大問題となっている。常勤職員の負担も大きく、時間外勤務や休日勤務で埋め合わせをしている現状。介護報酬や医療報酬も今後ますます厳しくなる一方で、公務員の給与表と合わせるのは無理があるのでは。今後の市の発展と存続を考えると見直すことも課題なのではと考えます。
まずは、市役所や警察署の窓口に立たれた時、相手に対して不愉快な思いをさせないような対応を心がけることだと思います。
市がどうしたいかを明確にして、具体的に市民に説明すること。
人が集まり、住みたくなるようなまちづくり。
税金の使い方の合理化。
市民が安心して生涯生活していける市。子どもたちが大学などで離れてもまた戻って来られるところ。安心して医療を受けられるようにすべき。就職先と病院がきちんとしていけば若い人たちも過ごしやすと思う。
子どもを育てやすいまちづくりをすることで、移住者を増やすなどし、人口を増やせば自然と活性化していくのではないかと思います。新しいことを始めても、地域活動に積極的に参加したい方は、私の周りでは少なくなっていると思うから。
市民に寄り添う気持ちを忘れずに何事も取り組むことが大切だと思います。
市民が住みよいと思えるような環境を整えていくことが必要なのかなと思います。
市民が「住んでよかった」「利用してよかった」と思ってもらえるような行事・人間関係を築いていければと思います。
現代の近代化に合わせたシステムや情報処理能力を取り入れ、身に着けるべきだと思う。近代化し、進化している自治体も多い中で、匝瑳市は遅れていると思う。
市職員であるという規範意識をしっかりと持つことを改めて確認し、心に留めておく。それでも横柄な態度をする人が減るのではないだろうか。
市民が「楽しそう」「参加してみたい」という活動を考えていかななくてはいけないと思います。具体的に何と言えなくて申し訳ありません。
市民の皆様信頼される組織でいられるよう日々の職務を丁寧に行っていきたいと思っています。
市民に尽くす姿勢。常に市民の生活をより良くするにはどうすればいいかを考えて行動すること。
安心して住み続けられるまちづくり(環境保全・子育て支援・医療充実)。
市民の方の声を聴いて、それを積極的に改善したり考え直したりしていくこと。

問 24 市の発展に向けて取り組むべきこと
人口減少を止めるべく、若者が大学に行った後、地元で就職できるように奨励する(公務員だけではなく)。近隣の市町村と連携を強化し、東総地域全体として物事を考え進めていくこと
協働によるまちづくり、市民サービス、啓発、PRなど。
まちおこしになるイベント。
住みやすい環境の整備、学校や保育所の施設の充実(近隣と比べて魅力ある環境に!)。住んでみたい・通わせたいといった個性のある充実した環境にすることで、この先の10年、20年後の人口に差が出てくるのではないかと考えます。
人口減少を減らすため、市民が住みたくなるようなまちづくり。匝瑳市をアピールしていきたい。
事務的な回答ではなく市民に寄り添ったサービスを目標に向かうことが大切だと思う。「やはり市役所に相談してよかった」と言われるような職員を求めているようです。地域とたくさん話し合う機会を持ち、地域の人と一緒に協力し合う姿勢を大事にすると少しずつでも匝瑳市の良いところが見つかり、発展に繋がるのではないのでしょうか。
市民の方が利用しやすい市役所業務の簡素化。また、行政の体制を見直す。手続等、あちらこちらに案内されて困っている人もいますので、総合受付のような相談事やその時の要件を把握してから案内していただくようなシステムを作ると良いと思います。
協働によるまちづくりの推進。市民一人ひとりの健康・生きがいつくりの推進。
市全体の奉仕者として、また、地域の奉仕者として、市と地域を結ぶパイプ役になれば良いと思います。
若い人が希望を持って定住できる環境づくり(雇用・子育て等)。
市が実施している業務等を市民に知ってもらうことが必要。
今年度に入り、ひと月の出生数が1ケタの月もあり、人口減少はかなり深刻だと思います。大きな会社や工事を誘致して働く場所をつくる。
市の発展に向けての具体的方策を策定し、市長をはじめ、市民が同じ方向を向いてそれに向かって取り組むこと。
事務事業の整理・統合。
人材の確保・事業仕分け。
子育て世代にとって魅力的なまちづくり。老後が安心なまちづくり。
目標設定を明確に。何をもって発展したいと捉えるか。
市職員が取り組むべきこと：前例にこだわりすぎず、常に改善の意識をもって業務に取り組む。新しい取組に挑戦する姿勢をもつ。地域の動向に関心をもつ。
市が取り組むべきこと：「市職員が取り組むべきこと」に掲げた事項を職員が実践できるような環境整備や研修を行う。(例)モチベーションアップのための取組(職員表彰制度の活用、実績に応じた給与等への反映、モチベーションアップ研修等)や、必要な人材の確保等。
市が取り組むべきこと：人口減少が進んでいくので、今後の持続可能な行財政運営について本格的に検討していかなければならないと思う。①人口が減っても事業は減るどころか増えているので、市がやるべき事業と民間に任せる事業の選別。②人口減少はある程度しかたがないので、減少幅を減らす取組。
職員が取り組むべきこと：職員はもっと地域に足を運び、まちづくりのヒントを市民の方から探し出すことが必要と思う。
本市としての活力を維持するためには、人口減少の減少幅を縮小することが必要である。特に、生産年齢人口の減少を抑制するために、住宅取得支援、子育て支援等の施策の充実が必要である。また、現状、生産年齢人口の減少が今後も進むと想定されることから、地域経済やコミュニティを維持するためには、高齢者のライフスタイルに合わせた就業等ができる環境の整備が必要となる。そこで、市としても高齢者の生涯活躍の場の確保に向けた施策(就業、生涯学習等)の充実が必要である。
人材確保(育成)による創造性のある行政運営。
市民協働による市の活性化。
業務内容の確認・見直し。
意識改革。
人口減少を前提とした、行財政設計と運営。特定分野における共同行政サービスの推進、強化。業務のAI化推進。統計の利活用。

問 24 市の発展に向けて取り組むべきこと
子どもを産み育てる世代への支援の充実・・・子どもを産み育てる世代が安心して生活することができるよう、経済的支援、小児医療、職場（民間を含む）の社会保障制度（産休・育休制度）を充実させるための取組や啓発を行う。成田空港第3滑走路の完成に向け、成田市周辺地域の雇用拡大が見込まれることから、成田市に近いことをPRするとともに、上記の子育て支援を充実させることによって、「日本一子育てしやすいまち」を目指す。
必要な事業とそうでない事務事業の選別。市民の取組に対して、今までとは一線を画したサポート体制（中間支援組織の設立等）。
少子高齢化・人口減少が進む中で、「定住したいな」と思えるような魅力的な市とは何か、大学進学等で一度市から転出する方々が「戻ってこよう」と思える市とは何か（どうしたら戻ってくるか実際に聞いてみる）を考えていく。住みやすさ、働きやすさ、お得感（メリット）等。
予算が毎年枠配分により削られ続けており、実際に必要と思われる予算も組めない状況であり、市単独の事業については、将来的に継続可能とは思えないため、見直しが必要ではないか。職員については、事務量が年々増えているが、職員数が増加することではなく、民事の案件に対しても職員が介入することが多くなっており、正規で採用している職員も体調が悪くなる者が増えているように感じる。このように余裕の無い状況では、職員が自ら考える時間も少なく取り組むべきことと言われても難しい。収入を得ることが難しい現状では、市民に対して良い顔をしているだけでは、将来的な発展は望めないのではないか。
全ての職員が地域活動に参加し、地域の意見・課題について理解する。
市単独でこの問題を考えるのではなく、近隣自治体を含めた広域的な地域の活性化という視点で考えていくべきであると考え。例えば、香取・海匠地域あるいはそこに山武や印旛地域を含めるなど。その上で、この地域に若い人が流入してくる、また、生まれ育った人が今後も住み続けることができるための雇用の確保や子どもたちを安心して産み、育てていくための子育て支援の充実。高齢化社会における高齢者が安心して生活していくことができる地域医療体制や在宅介護等の充実などに重点を置いて取り組んでいくべきであると考え。
既にNPOや地域内の団体で活動している人材（リーダー）に対して、前例にとらわれずに支援することが必要。
前例にとらわれずに自由な発想で、職員一人ひとりが市民のために何ができるか考え、実行すること。
柔軟な発想を大切にしていく
職員：職員一人ひとりの業務能力を向上させる取組。市：都市基盤整備の促進。
市役所の業務がどのように市民生活と関わっているか、見える化することで信頼関係は強まると思う。
市役所職員は市民の立場に立って、欲しい情報、したいことを的確に理解し、手助けをできるようにし、難しい法律用語を使わずに理解してもらえようにしたらよいと感じる。市としては、大切に育てた若い人材が都市に流失したまま戻らないことにならないよう、交通網の整備が必要と考える。住む分にはよいが、生活の糧がなく、利便性も悪いようであれば、人口の流出は避けられないと思う。
豊かな自然を守るための方策を打ち出す必要がある。
市職員と市民間の情報共有。
職員各自の事務遂行能力・資質の向上が必須。
他市における前例の有無にかかわらず、発展のために必要だと思われることを行うこと。
地元の職員を多く採用し、本当に匝瑳市をよくしたいと思う職員を増やす。若い世代の職員による提案・企画を充実させ、施策に反映させる。
市職員の匝瑳市離れが気になります。市職員が匝瑳市から他市町村へ転出してしまうことがとても残念に思います。
もっと「市」を知るべき。市の職員であっても、どこに何があるかわからない職員が多い。
市としては持続可能な財政運営や人口減少対策に取り組む、職員としては市民の声に耳を傾け、少しでも要望に応えられるように取り組むこと。
事務事業の整理・統合。
市のビジョンを市民に明確に伝え、協働を目指す。
自己啓発と意識改革。形だけではない真の意味での「市民との協働」。

問 24 市の発展に向けて取り組むべきこと

市民（市職員を含む）が匝瑳市の状況（人口減少・少子高齢化・財政・税政・産業等）を理解・把握し、市側と共通認識の上で共にまちづくりを進めていけるように定期的な情報提供・発信。市民が一番目にするもの、回覧板等の活用。行財政改革と合わせ、人口減少社会・少子高齢化を見据えた市の発展施策も同時に推進する。健全化だけでは衰退する。

行財政及び職員意識の改革…市の歳入増が中々見込めない中で、財政調整基金などの限りある財源を効率的・効果的に活用していくには、職員個々のコスト意識の醸成や創意・工夫等が必要だと思われる。

大都市圏にはない匝瑳市独自の魅力を創設し、首都圏に向けPRしていく必要がある。また、交通の利便性を向上させる必要がある。

少子化対策。生まれてからの支援より生まれるまでの環境づくりの方がよほど重要。晩婚化も一因であるだろうが、不妊に悩まされている市民が自分の周りにもとても多いと感じている。助成を充実することで転入者も呼び込めるかもしれない。

ルックウエスト。今までは銚子市が発展すればこの地域が恩恵を受ける構造であったかもしれないがこのままでは共倒れ。県の考え方は郡単位で分けてしまうので匝瑳市は境界に追いやられた形。成田空港の拡大を見越して、今後は多古町や山武郡市ともっと深い連携をとっていくべきではないだろうか。

普通交付税は合併算定替の終了や人口減少によって減少し、市税も人口減少等により、増加を見込むことができない状況の中、社会保障費等の増加や新たな施策の実施により、歳出の抑制は非常に困難となっている。このことから、市が発展していくためには、安定的な自主財源等の確保は必須であり、積極的な歳入確保対策に取り組むべきと考える。

市民の考えを積極的に取り入れるために、市役所に来庁した方の話だけでなく、市全体の意見を聞く機会をつくること。

市が発展しないこと（人口減少は避けられないこと）を認識すること。その認識に基づき、不景気の中で市を維持する（破綻させない）方策を考えること。

第4章 意識調査票

第2次匝瑳市総合計画策定のための 職員意識調査

ご協力のお願い

本調査は、第2次匝瑳市総合計画の策定にあたり、「職員参加型の計画づくり」という策定方針のもと、全職員にご意見をお伺いするものです。

お忙しいところ恐縮ですが、今後のまちづくりを皆様とともに考えていきたいと思っておりますので、調査の目的をご理解の上、率直なご意見をお聞かせください。

平成30年7月

匝瑳市企画課

[記入上の注意]

- 1 回答は無記名でお願いします。
- 2 回答は、設問ごとに（1つに○）、（2つまで○）などそれぞれ指定されていますので、お間違えのないようお気を付けてください。

○は、番号を囲むように濃くつけてください。（例 ①）
- 3 ご記入いただいた調査票は、課ごとに取りまとめの上、7月31日（火）までに企画課へ提出してください。
- 4 調査票についてのお問い合わせは、下記にお願いします。

企画課 企画調整班

内線 2217

E-mail: k-kikaku@city.sosa.lg.jp

問1 あなたの性別はどれですか。(1つに○)

- | | |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

問2 あなたの年齢はどれですか。(1つに○)

- | | | |
|-----------|--------|--------|
| 1 10・20歳代 | 2 30歳代 | 3 40歳代 |
| 4 50歳代以上 | | |

問3 あなたの所属は次のどれですか。(1つに○)

- | | | | | | | |
|-----------|---------|-----------|--------|----------|-----------|---------|
| 1 秘書課 | 2 企画課 | 3 総務課 | 4 財政課 | 5 税務課 | 6 市民課 | 7 環境生活課 |
| 8 健康管理課 | 9 産業振興課 | 10 都市整備課 | 11 建設課 | 12 福祉課 | 13 高齢者支援課 | |
| 14 野栄総合支所 | 15 市民病院 | 16 むくもりの郷 | 17 会計課 | 18 学校教育課 | | |
| 19 生涯学習課 | 20 監査委員 | 21 農業委員会 | 22 市議会 | | | |

問4 あなたは、匝瑳市について他の市町村の人に自慢したいことはありますか。
(1つに○)

- | | |
|-------------|------------|
| 1 はい →問4-1へ | 2 いいえ →問5へ |
|-------------|------------|

問4-1 それはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|---------------------------|
| 1 自然の豊かさや風景の美しさについて |
| 2 住んでいる人の人柄や人情について |
| 3 祭りや風習、伝統文化などについて |
| 4 地元の産業(農林水産業・商店街・工業)について |
| 5 生活のしやすさや利便性について |
| 6 その他(具体的に) |

問5 匝瑳市をイメージすることば(キーワード)としてどれがふさわしいと思いますか。
(3つまでに○)

- | | | | |
|---------|---------|----------|-----------|
| 1 自然 | 2 緑 | 3 海 | 4 田園 |
| 5 食 | 6 医療 | 7 福祉 | 8 健康 |
| 9 文化 | 10 元気 | 11 安心・安全 | 12 ふれあい |
| 13 支えあい | 14 住みよい | 15 ふるさと | 16 ひと(人材) |
| 17 協働 | 18 豊か | 19 希望 | 20 その他() |

問8 市の高齢者や障がいのある方に対する施策として、何が重要と考えますか。
(3つまで○)

- 1 社会参加を促進する(生涯学習、地域活動、就労など)
- 2 在宅福祉サービスを充実させる(訪問介護など)
- 3 通所によるサービスを充実させる(デイサービス、機能訓練、生活訓練など)
- 4 生活の場を確保する(入所施設、グループホームなど)
- 5 地域での支え合いを充実させる(ボランティア活動など)
- 6 経済的支援を充実させる(低所得者対策、家族介護支援など)
- 7 その他(具体的に)

問9 市の子育て支援への取組で、何が重要と考えますか。(3つまで○)

- 1 地域でお互いに子育てを支え合う仕組みをつくる(ファミリー・サポート・センターなど)
- 2 保育所(園)・こども園の充実を図る(延長保育、病児・病後児保育の実施など)
- 3 子どもの居場所を確保する(放課後児童クラブの充実など)
- 4 出産・子育てに係る経済支援を充実させる
- 5 相談体制を強化する(子育て世代包括支援センターの整備など)
- 6 子育て家庭同士や世代間の交流を促進する(つどいの広場など)
- 7 その他(具体的に)

問10 地域の医療環境への取組で、何が重要と考えますか。(3つまで○)

- 1 市民病院の入院機能強化を図る(他病院や診療所、在宅からの受入れ強化など)
- 2 市民病院の外来機能強化を図る(診療科目の充実など)
- 3 老朽化している市民病院を建て替える
- 4 救急・休日・夜間医療の充実を図る
- 5 在宅医療の充実を図る(往診・訪問看護など)
- 6 医療従事者を確保する(医師・看護師など)
- 7 地域の中核病院や診療所等の連携強化と役割分担を図る
- 8 医療費の負担を軽減する
- 9 その他(具体的に)

問11 市の農林水産業振興への取組で、何が重要と考えますか。（3つまで○）

- 1 生産性を向上させる（生産基盤の整備や6次産業化など）
- 2 担い手を育成していく（後継者の育成など）
- 3 新たな経営体制を構築していく（経営規模の拡大や法人化など）
- 4 販路を拡大する（大都市圏へのPRや契約販売、インターネット利用など）
- 5 観光や商工業など他分野と連携していく（特産品の開発、食の魅力向上、体験型観光の推進など）
- 6 地産地消を推進する（学校給食での使用や直販所の充実など）
- 7 ブランド化に取り組む
- 8 その他（具体的に)

問12 市の商工業振興への取組で、何が重要と考えますか。（3つまで○）

- 1 利便性の高い商業拠点をつくる
- 2 既存商店や既存企業に対して経営支援を行う（経営改善指導や人材育成など）
- 3 地域と連携した活動を積極的に行う（イベント開催など）
- 4 新規参入や起業を促進する（助成・指導など）
- 5 優良企業を積極的に誘致する
- 6 農林水産業や観光など他分野と連携していく（特産品の開発、食の魅力向上、体験型観光の推進など）
- 7 その他（具体的に)

問13 市の観光振興への取組で、何が重要と考えますか。（3つまで○）

- 1 レクリエーション施設や自然を楽しむ施設などを整備する
- 2 地域文化を生かしたイベントを充実させる
- 3 新たな観光スポット（ルート）を開拓する
- 4 観光客の受け入れ体制を推進する（宿泊施設、民泊、二次交通の整備など）
- 5 大都市圏へのPRに力をいれる（ポスターやCM、イベント開催など）
- 6 農林水産業や商工業など他分野と連携していく（特産品の開発、食の魅力向上、体験型観光の推進など）
- 7 その他（具体的に)

問14 市の安全なまちづくりへの取組で、何が重要と考えますか。(2つまで○)

- 1 災害を未然に防ぐための防災基盤の整備(治山治水対策など)
- 2 市民活動が活発に行われるよう促進する(自主防災組織、防犯活動など)
- 3 的確な情報提供や緊急時の体制を強化する(防災無線、危機管理体制など)
- 4 市民に対し、防災・防犯意識を啓発する(防災訓練、防犯教室など)
- 5 関係機関(警察、各種協会など)との連携を強化する
- 6 その他(具体的に)

問15 市の自然環境保全への取組で、何が重要と考えますか。(2つまで○)

- 1 豊かな自然環境を壊さない土地利用を行う
- 2 市民による環境美化活動を活性化させる
- 3 ごみ対策に力を入れる(ごみの分別・減少・再利用など)
- 4 不法投棄をなくす(監視強化など)
- 5 排水処理設備を計画的に整備する(集落排水、浄化槽設置など)
- 6 その他(具体的に)

問16 小・中学校運営において、何が重要な取組と考えますか。(3つまで○)

- 1 地域と協力しながら子どもたちの健全育成を図る
- 2 地域の人や保護者の意見を学校運営に反映させる
- 3 学校が持つ資源を地域づくりに活用する(学校施設、教職員など)
- 4 地域の人々が持つ技能や経験を学校教育に活用する
- 5 教育指導体制を強化し、基礎学力の向上を図る
- 6 本市ならではの特色ある教育展開を図る
- 7 子どもたちの安全を守る体制を強化する
- 8 その他(具体的に)

問17 市の生涯学習・スポーツ、文化活動への取組で、何が重要と考えますか。
(3つまで○)

- 1 生涯学習のプログラムを充実させる(地域の歴史・自然・文化など)
- 2 芸術に触れる機会を充実させる(音楽・絵画・演劇など)
- 3 活動拠点を整備・拡充させる(公民館の充実、学校施設の開放など)
- 4 文化財や民俗資料などを収集・保存・活用する(資料館の整備など)
- 5 他地域との交流を深める(自治体間交流、海外派遣研修など)
- 6 文化・スポーツの組織や活動を支援する(指導者の育成、活動費用の助成など)
- 7 その他(具体的に)

問18 市の人権問題への取組で、何が重要と考えますか。（2つまで○）

- 1 早期発見・早期対応できる体制を強化する（関係機関の連携など）
- 2 学校や地域において人権侵害に対する意識の啓発をする（講演会など）
- 3 気軽に相談できる体制を充実させる（相談窓口、相談員の充実など）
- 4 人権に深く関わる人材（教員、医師、公務員、福祉関連など）の意識を向上させる
- 5 人権侵害に対する救済に向けた施策を強化する（補償、条例整備など）
- 6 その他（具体的に)

問19 市の行財政改革の取組で、何が重要と考えますか。（3つまで○）

- 1 事務事業を合理化する（事業や施設の統廃合、民間委託など）
- 2 事務手続きを簡略化・スピード化する（窓口の総合化、電子化など）
- 3 施策・事業の評価・点検を行う（事務事業評価など）
- 4 職員給与・定員の適正な管理を行う
- 5 職員の能力を向上させる（政策立案能力、職務遂行能力など）
- 6 市民との情報共有を推進する（積極的な情報開示など）
- 7 自主財源を確保する（税収増加策の実施など）
- 8 その他（具体的に)

問20 市では現在、市民と行政との協働によるまちづくりに取り組んでいます。あなたは、協働によるまちづくりが推進されていると思いますか。（1つに○）

- 1 とても推進されていると思う
- 2 ある程度推進されていると思う
- 3 あまり推進されていないと思う
- 4 まったく推進されていないと思う
- 5 わからない

問21 あなたは、お住まいの市や町で市民（町民）として地域活動に参加していますか（したいと思いますか）。（1つに○）

- 1 現在参加していて、今後も参加したい
- 2 現在参加していないが、今後は参加したい
- 3 現在参加しているが、今後は参加したくない
- 4 現在参加しておらず、今後も参加したくない

問21-1 問21で「1」・「2」・「3」に回答された方にお聞きします。どのような活動内容ですか。（自由記入）

問22 市役所は、市民に対する情報の提供や公開が十分であると思いますか。（1つに○）

1 十分だと思う	2 まあ、十分だと思う
3 あまり十分だとは思わない	4 まったく十分だとは思わない
5 わからない	

問23 市役所は、市民から信頼されていると思いますか。（1つに○）

1 とても信頼されていると思う
2 まあ、信頼されていると思う
3 あまり信頼されていると思わない
4 まったくそう思わない
5 わからない

問24 今後の市の発展に向けて、市及び市職員が取り組むべきことは何だと思いますか。（自由記入）

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

第2次匝瑳市総合計画策定のための職員意識調査
結果報告書
平成30年12月発行

編集・発行 匝瑳市企画課
〒289-2198
匝瑳市八日市場ハ793番地2
電話 0479-73-0081
FAX 0479-72-1114